

2025年3月
～2025年9月
春夏版

Welcome to NARA

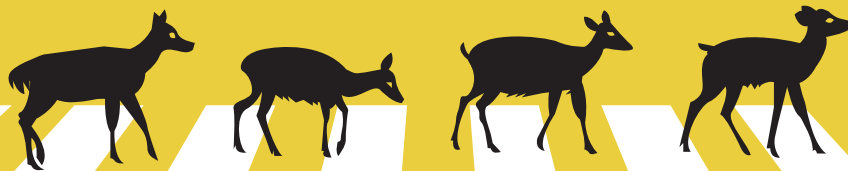
祈りの回廊



国宝のみほとけを巡る奈良
奈良の塗師屋・国栖の紙漉き

あらためまして、

奈良へようこそ!



「特別講話」

奈良豆比古神社

安養寺

宮司 辰己眞一氏

住職 松島靖朗師

奈良大和路の「秘宝・秘仏特別開帳」

国内
最多

世界文化遺産が3つ!!!



1993年

法隆寺地域の仏教建造物

斑鳩町にある法隆寺と法起寺は、現存する世界最古の木造建造物として、日本で初めて登録された世界遺産です。6世紀中頃、日本に仏教が伝来した直後に創建された仏教建造物であり、その後の寺院建築に多大なる影響を与えました。



1998年

古都奈良の文化財

奈良市にある東大寺、興福寺、春日大社、春日山原始林、元興寺、薬師寺、唐招提寺、平城宮跡の8カ所で構成されています。奈良時代の建造物や遺跡が残り、8世紀の日本の都における宗教や生活の在り方を今に伝えています。



2004年

紀伊山地の霊場と参詣道

奈良と三重、和歌山の三県にまたがる三つの霊場(社寺)とそれらを結ぶ道(参詣、修行の道)が資産です。個々のスポットの価値だけでなく、風土・生活・信仰が一体となった文化的景観であることが日本で初めて適用された事例です。

あらためまして、 奈良へ ようこそ!

奈良は、日本の歴史と文化が脈々と受け継がれてきた場所です。奈良公園での鹿との出会い、3つの世界文化遺産、そして豊かな自然が広がる南部や東部。かつて仏教が伝来し、芸術、伝統文化がここから生まれ、日本各地に広がっていきました。奈良を訪れ、さまざまな体験を通じて、過去から現在へのつながりを感じてください。



どうして?

奈良公園に鹿がいる?

奈良時代春日大社の御祭神の武甕槌命が白い鹿に乗って御蓋山に降臨した社伝に由来します。以来、春日大社の周辺地域では鹿が「神様の使い」と神聖視され、人間と共生してきました。

現在は奈良公園を中心に約1,300頭の鹿が生息しており、1957年には天然記念物に指定されました。鹿苑で6月に子鹿公開、10月に鹿の角きりが行われます。角きりは江戸時代の1672年から鹿の角による事故を防ぐために行われている伝統行事です。

鹿との共生・鹿マナーを大切に

❖ 鹿せんべい

奈良公園の鹿には鹿せんべいを与え、他の食べ物を与えないください。鹿せんべい以外のものを食べると健康を害する恐れがあり、特にビニール袋や紙の誤飲は危険です。鹿せんべいを与えるときは、じらしたりせず、鹿せんべいが無くなったなら両手を広げて「もうないよ」と鹿に教えてあげましょう。

❖ 鹿との接し方

鹿は野生動物です。無理に触ったり追いかけていたりすると、鹿にストレスを与えるため、自然な距離感を保つことが大切です。特に求愛期(秋)や出産期(春~初夏)の鹿は気が立ちやすく、近づきすぎると攻撃的になることがあります。鹿を尊重しながら、安心・安全に魅力を感じてください。

❖ 公園内でのルール

奈良公園内では、鹿が誤って飲み込まないようにゴミは必ず持ち帰り、周囲の環境を守ることを心がけてください。また、興奮した鹿が急に動いたり攻撃的な行動をする場合があるため、小さな子どもが鹿に近づきすぎないように保護者がしっかり見守ることが重要です。鹿と共存を楽しむためには、ルールとマナーを守ることが大切です。

4つめの世界遺産登録に向けて

飛鳥・藤原の宮都

東アジア諸国の中で、中央集権的な古代国家の宮都が誕生、成立した過程を、2つの連続する時代の遺跡群の変遷から示すことができる唯一の文化遺産です。橿原市、桜井市、明日香村の19の資産で構成されています。



奈良の南部も

おもしろい

奈良県南部は、自然豊かな森林地帯です。登山(大台ヶ原山、釈迦ヶ岳など)やトレッキング(葛城山、金剛山など)、川遊び(みたらい溪谷など)、キャンプ(下北山村、吉野川)、星空観察(五條市大塔)、温泉(十津川・天川)など、心と体を癒す体験が満載です。歴史的な史跡も数多く残ります。





奈良は「はじまり」

奈良は「日本のはじまりの地」と言われています。一つは、正史『日本書紀』において、初代天皇である神武天皇が橿原宮(橿原市)で即位したことにより、日本の建国の始まりとされていることがあります。もう一つには、奈良で国家の基盤として必要な、法令や行政機構づくりが始まり、完成したことが大きいと考えられます。4世紀から7世紀にかけてのヤマト王権の時代から、8世紀末に都が平安京に遷るまでのあいだに、奈良には朝鮮半島や中国大陸から様々な文化がもたらされました。仏教、食文化、建築技術、様々な物品の生産技術が集まる場所だったのです。

飛鳥時代から奈良時代にかけて、天皇を中心にした中央集権国家が成立しました。大宝元年(701)には、現在の刑法にあたる「律」と、行政法・民法にあたる「令」が整備されました。新しい技術を用いた品々が法制度と役所によって生産管理され、税として求められるようになったことが、日本各地に技術を伝えるきっかけになったとも考えられます。

平安時代になると、日本の文化は日本独自の「国風文化」へと変化していきます。しかし、最初に根付き、国内全域へと広まっていく「はじまりの地」になった場所、それが奈良であると言えます。



薬

薬の文化は5世紀ごろに朝鮮半島から伝来したと考えられます。推古天皇19年(611)には、宮廷行事として菟田野(現在の宇陀市)で薬猟が行われています。また、大宝元年(701)になると、医疾令という法律が定められており、医療と薬が治療に使われるようになったことがわかります。



酒

お酒は古くからあり、「古事記」などの神話にも記されています。飛鳥時代にはすでに朝廷内にも「造酒司」という造りに関する役所が置かれるほどでした。室町時代に正暦寺(奈良市)で開発された「諸白づくり」という製法が、現在の日本酒で使われている清酒製法の原型と考えられており、奈良は清酒発祥の地といわれています。

仏教から生まれたもの

6世紀の中頃に奈良に伝来した仏教は、その後の国の宗教史・美術史・文化史などに大きな影響を与えました。墨や紙、瓦などは、仏教とともに伝来したと考えられます。都が平安京に遷ったのちも、寺院は奈良に残り強大な勢力を築きました。それらの寺院は薬や酒や茶の生産指示を行う拠点でもありました。



食文化

味噌や醤油は奈良時代に朝鮮半島経由で伝わったものが発展したと考えられます。餡がはいった饅頭は、室町時代に漢國神社(奈良市)内の林神社に祀られている林浄因が考案したもの。ほかに豆腐、そうめん、甘柿、茶粥、竜田揚げなども奈良から広がったという説があります。



写真提供: 薪御能保存会



奈良は日本の芸能文化と深い関わりを持つ地です。

『日本書紀』には、推古天皇の時代に大陸から伎楽が伝わったことが記されています。伎楽は仮面を用いた舞踊劇で、儀式や宗教行事とも深く関わっていました。

奈良時代には、大陸から散楽が伝わりました。この散楽は軽業・曲芸・奇術などで構成される滑稽な演技を中心とするもので、奈良の地で発展しました。平安時代になると、散楽は猿楽と呼ばれるようになります。その後、猿楽は引き続き奈良を中心に発展を続け猿楽能や能と呼ばれるようになり、さらに現在の能楽

へと繋がっていきます。

南北朝時代から室町時代にかけて、猿楽はより高度な芸術へと昇華しました。興福寺・春日大社・多武峰寺・法隆寺などの奈良の神社は、円満井座、坂戸座、外山座、結崎座は、それぞれ金春座、金剛座、宝生座、観世座という現在に続く座に発展してきます。この四つの座はのちに大和四座と呼ばれました。奈良の神社が猿楽を保護したのは、猿楽が『翁(翁舞)』という演目を演じたからです。

『翁』は、「能にして能にあらず」と言われ、法会や神事になくはならない神事性の高い芸能でした。奈良豆比古神社に伝わる翁舞は能の原型といわれ、現在でも毎年10月8日に行われています。また、興福寺は能との関わりが深く、現在でも年に2回、5月に「薪御能」、10月に「塔影能」が行われています。中でも「薪御能」は貞観11年(869)に行われた薪猿楽がその起源とされ、以降、数多くの変遷を経て今日に受け継がれています。この野外能は、大和四座の能役者たちが一堂に会し、技を披露する場としても知られていました。神聖な儀式である

同時に、現代でも能の魅力を伝える重要な行事です。夕刻から夜にかけて境内で焚かれるかがり火を背景に演じられ、幻想的な雰囲気の中で能を楽しむことができます。

現在の川西町にあった結崎座に所属していた観阿弥は、猿楽の技芸を磨きつつ、田楽や曲舞などの要素を取り入れた革新的な演出を行いました。彼は京都に進出し、將軍足利義満から高く評価され、義満の庇護を受けて全国的な名声を得ます。観阿弥の息子である世阿弥が著した『風姿花伝』至花道』は、能の理論と実践の基礎を築いた書物であり、現在でも能の伝書として知られています。

奈良は能が生まれた地であるだけでなく、その作品の題材となる場所も多く存在します。能の精神と芸術性が時代を超えて受け継がれてきたその歴史を、ぜひ奈良で感じてみてください。



奈良公園にある奈良春日野国際フォーラム 葺~I・RA・KA~には奈良県が能発祥の地であることを記念して、能楽ホールが設置されました。舞台の目付柱を取り外しできるようにしているホールは全国でも珍しい形です。

本説を訪ね、能を楽しむ

世阿弥は、「風姿花伝」で「よき能」は「本説正しい」と述べています。「本説正しい」とは、古典や有名な説話などに基づいていることです。大神神社を舞台とした「三輪」という能があります。物語は、玄寶僧都が女性に与えた衣が神社の神木に掛かっていたことから始まります。この神木は、大神神社の境内に根株だけですが衣掛杉として今も大切に守り伝えられています。この能の本説は、三輪の大物主大神の衣に赤い糸を縫い付けたという神婚伝説と衣掛杉です。

壬申の乱を題材とした「国栖」という能があります。主人公の大海人皇子は、皇位を争う大友皇子に追われ吉野に逃れますが、遂に勝利し天武天皇として即位します。最後に天皇の御代を寿ぎ蔵王権現が来臨します。この能の本説は壬申の乱であり、蔵王信仰です。蔵王権現は、今も吉野山の金峯山寺の本尊として崇敬を集めています。

一曲とともに本説正しい「よき能」です。「本説」を訪ねると、能をもっと楽しめられます。



池田 淳
総本山金峯山寺史研究室長兼文化財主任。大阪芸術大学・龍谷大学非常勤講師。専門は日本芸能史。論文には、「年預の翁詞章の伝来」(『奈良県立橿原考古学研究所論集』16)など。



奈良大和路の

「秘宝・秘仏特別開帳」

普段は拝観できない秘宝・秘仏の特別開帳を紹介

お出かけの際は事前に最新情報をご確認ください。
拝観料その他詳細は各社寺にお問い合わせください。

(掲載内容は2025年2月現在のものです)

奈良大和路の「秘宝・秘仏特別開帳」の情報は、「祈りの回廊」公式ホームページでもご確認ください。

<http://inori.nara-kankou.or.jp/>



2025年春夏版特別開帳情報

祈りの回廊 2025年春夏版では、「EXPO 2025 大阪・関西万博」開催を記念して、例年にはない特別開帳を実施する2つの寺院(唐招提寺・正蓮寺)を「2025年春夏版特別開帳情報」として下記にご紹介します。普段は公開されていない仏像や貴重な文化財を万博開催期間中の下記日程で拝観いただける貴重な機会です。これらの開帳は、歴史ある神社仏閣の魅力さをさらに深く感じることができ、心に残るひとときとなることでしょう。奈良の豊かな文化と歴史をこの機会にぜひ体験してください。

唐招提寺

1 覚盛上人坐像 **重文** 《中興堂》

5/19(月) ※中興忌梵網会(うちわまき)

2 阿弥陀如来立像 **重文** 《西方院》 **初公開**

5/20(火)~5/26(月)

3 鑑真和上坐像 **国宝** 《御影堂》

6/5(木)~6/7(土) ※開山忌舎利会

4 地藏菩薩立像 **重文** 《地藏堂》

8/23(土)~8/24(日) ※地藏盆

西方院は唐招提寺から300メートル西に位置する塔頭の一つで、近鉄橿原線が敷設されるまでは唐招提寺境内にありました。唐招提寺奥之院とも呼ばれ、鎌倉時代に創建。今回特別公開される本尊・阿弥陀如来立像(重文)は左足ほごに墨書銘「巧匠法眼快慶」が確認された快慶晩年の作。境内には中興二世證玄和尚や隆光大僧正の五輪塔もあります(見学時間10:00~16:00)。御影堂では6月に3日間のみ国宝の鑑真和上坐像も開帳されます。

所 1 3 4 奈良市五条町13-46
☎ 0742-33-7900
所 2 西方院 奈良市五条2-9-6
☎ 0742-44-5286
行 ●近鉄西ノ京駅から徒歩約10分
●JR・近鉄奈良駅から奈良県総合医療センター行きバス「唐招提寺」下車、徒歩すぐ
HP <https://toshodajji.jp/>



3 鑑真和上坐像 写真:柳飛鳥園



4 阿弥陀如来立像 写真:柳飛鳥園

正蓮寺 大日堂

1 大日如来坐像特別公開 **重文** 《初公開

2 猫入り涅槃図特別公開 **初公開**

1 2 9/14(日)~9/23(火)・祝

正蓮寺大日堂(重文)は明治の廃仏毀釈により廃寺になった普賢寺の本堂で、現在は正蓮寺大日堂として地元自治会が管理。創建年代は不明だが、その再建年代は棟札により文明10(1478)年の上棟であることが分かっています。ご本尊の大日如来坐像(重文)は鎌倉時代の作で、全体に肉付きが豊かで、衣文の流れは優美。2020年から10ヶ月かけて修復され、今回美しい姿を拝観できます。また猫入り涅槃図は全国でも十数例ほどしか確認されていないといわれ、大変珍しいものです。境内には日本で唯一、蘇我入鹿公を祀る入鹿神社もあり、飛鳥時代には、このあたりに入鹿公の母の館があったと伝わっています。入鹿公は頭脳明晰であったので「学業成就」の神様として厚い信仰があります。御朱印をご希望の場合はお声掛け下さい。



1 大日如来坐像(重文) 写真:小綱町文化財保存会



2 猫入り涅槃図 写真:小綱町文化財保存会

所 橿原市小綱町335
☎ support@irukashrine.jp (小綱町文化財保存会)
行 ●近鉄大和八木駅から徒歩約10分 ●JR畷傍駅から徒歩約15分
HP <https://irukashrine.jp/> (小綱町文化財保存会)

奈良での体験



奈良県オープンファクトリーマップ

奈良県では、大阪・関西万博を契機として、工場見学や体験、工芸のワークショップなどのオープンファクトリーの取組を推進しており、この度オープンファクトリーを実施している県内事業者を紹介するWebマップを作成しました。現在の掲載数は41件。今回はその中から3事業者を紹介します。マップを参考に奈良の旅をより充実させてください。

URL : <https://www.pref.nara.jp/67836.htm>
問い合わせ: 奈良県産業創造課 ☎0742-27-8814



奈良は、長い歴史と文化があり、そこから多彩な産業が育まれてきました。紙や墨、筆などの伝統工芸のほか、皮加工、木工加工、履物製造や服飾品製造など、さまざまな産品が誕生しています。製造の現場を知ってもらいたい、身近に感じてほしいなどの思いがある事業者は、工場で製造を見学や自ら作る体験ができるようにしています。素材や技術の高さを知れば奈良の魅力が再発見するきっかけにもなります。

掲載事業者例 下記、施設・店舗の体験はすべて予約制です。事前にホームページをご確認の上お申し込みください。



上田酒造

清酒発祥の地と言われる奈良県で、酒作りが活発に行われ始めたのは室町時代頃。約400年の歴史を持つ酒蔵を営む「上田酒造(生駒市)」では、酒蔵見学と試飲の体験ができるほか、素材の持つ甘味を引き出し、旨味をアップしてくれる調味料「塩麴」づくりの体験ができる。



生駒市香分町 866-1
☎ 0743-77-8122
MAP P24 3-2



ニット・ウィン

奈良県は靴下の生産量が全国の60%で日本一。葛城市の靴下会社「ニット・ウィン」では、2024年11月にファクトリーストアがオープン。職人の説明を聞きながら、同社のブランドの1つ「ニシグチクツシタ」で糸から靴下へと編みあがり、梱包されるまですべてを見学できる。



葛城市木戸 210-8
☎ 0745-43-5090
MAP P24 6-1 各回定員4名



米田神具店

奈良県の伝統的工芸品「神酒口」を作る体験ができる。神酒口は、神棚に供える徳利の口に挿す、炎と水象った形の神具で、薄く削った木の板の溝を組み合わせる。ほかに工場見学、かんな削り体験も可。(団体の場合は要事前問い合わせ)。



吉野郡下市町下市 20-1
☎ 0747-52-2738
MAP P24 6-2



『祈りの回廊』読者プレゼント!!

応募期間 2025年3月1日~2025年9月30日まで
皆様のご感想・ご意見を今後の参考にさせていただくために本誌アンケートへのご協力をお願いします。
アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で「祈りの回廊 オリジナルメモ帳」をプレゼント!!

【動作条件】●ご利用端末に応じて以下のブラウザでアクセスください。iOS (iPhone iPad)=Safari | Android=Chrome ●リーダーアプリをご利用の場合はアプリ内ブラウザを選択せず、上記ブラウザをご利用ください。●上記ブラウザを使用しても正常に動作しない場合は、『シークレットモード/プライベートモードを解除』『cookieとJavaScriptをオン』の状態でごアクセスいただきますようお願いいたします。

アンケートはこちら



祈りの回廊オリジナルメモ帳
プレゼント!!



※画像はイメージです。実際の商品とは異なる場合があります。



不退寺 **3月中旬～4月上旬** **黄しよぶが** **5月上旬～下旬** **睡蓮** **6月下旬～11月中旬** **MAP A b-1**

在原業平朝臣画像、寺宝展

3/1(土)～5/31(土) 5/28(水)のみ多宝塔特別公開 (業平忌)

レンギョウ、椿、黄しよぶがなど四季折々の花が彩る在原業平ゆかりの古刹。本尊は業平自作と伝わる聖観音菩薩立像。2025年は業平生誕1200年記念の年となり、特別御朱印が授与されます。

所 奈良市法蓮町517 ☎ 080-8943-1201
 行 ●JR・近鉄奈良駅から大和西大寺駅行き、航空自衛隊行きバス「一条高校前」下車、徒歩約5分
 ●近鉄大和西大寺駅からJR・近鉄奈良駅行きバス「不退寺口」下車、徒歩約3分 ●近鉄新大宮駅から徒歩約15分
 画 http://www3.kcn.ne.jp/~futaiji/

在原業平朝臣画像 写真:永野鹿鳴荘

海龍王寺 **3月中旬～4月中旬** **MAP A b-1**

十一面観音菩薩立像、寺宝展 **重文など**

3/23(日)～4/7(月)、5/1(木)～5/9(金)

遣唐使の航海安全祈願の寺として信仰されたことから、現在も旅行や留学の安全が祈願されています。雪柳や新緑が境内を彩る季節、光明皇后が刻んだ像をもとにした本尊・十一面観音菩薩立像などを拝観できます。

所 奈良市法華寺町897 ☎ 0742-33-5765
 行 ●JR・近鉄奈良駅から大和西大寺駅行き、航空自衛隊行きバスまたは近鉄大和西大寺駅からJR・近鉄奈良駅行きバス「法華寺」下車、徒歩すぐ ●近鉄新大宮駅から徒歩約15分
 画 https://kairyuouji.jp/

十一面観音菩薩立像(重文) 写真:御飛鳥園

法華寺 **6月下旬～7月中旬** **MAP A b-1**

①十一面観音菩薩立像 **国宝**

3/20(木)・(祝)～4/7(月)、6/5(木)～6/10(火)

②国史跡 名勝庭園

4/1(火)～6/10(火)

光明皇后の発願で創建。本尊・十一面観音菩薩立像は光明皇后がモデルとも。江戸時代初期の回遊式庭園の名勝庭園では5月頃カキツバタが見頃を迎えます。

所 奈良市法華寺町882 ☎ 0742-33-2261
 行 ●JR・近鉄奈良駅から大和西大寺駅行き、航空自衛隊行きバスまたは近鉄大和西大寺駅からJR・近鉄奈良駅行きバス「法華寺」下車、徒歩約3分 ●近鉄新大宮駅から徒歩約15分
 画 https://hokkejimonzeki.or.jp/

●十一面観音菩薩立像(国宝) 写真:御飛鳥園

西大寺 **4月初旬～中旬** **MAP A a-1**

聚宝館特別公開 **国宝など**

4/20(日)～5/10(土)

称徳天皇の勅願により建立された南都七大寺のひとつ。鎌倉時代に叡尊上人によって再興されました。開館される聚宝館には平安時代の塔本四仏坐像(重文)、吉祥天立像(重文)や鎌倉時代の金銅宝塔(国宝)など、多数の尊像・寺宝が納められています。

所 奈良市西大寺芝町1-1-5 ☎ 0742-45-4700
 行 近鉄大和西大寺駅から徒歩約3分
 画 http://saidaiji.or.jp/

金銅宝塔(国宝) 写真:御飛鳥園

五劫院 **MAP A d-1**

五劫思惟阿弥陀仏坐像 **重文**

8/1(金)～8/11(月)・(祝)

東大寺の北に位置する古刹。南都焼討に遭った東大寺の再興に尽力した重源上人が宋から請来したと伝わる五劫思惟阿弥陀仏坐像は果てしなく長い時間を瞑想されたお姿で、特に頭髪が個性的です。

所 奈良市北御門町24 ☎ 0742-22-7694
 行 JR・近鉄奈良駅から青山住宅、州見台(くにもだい)八丁目行きバス「今在家」下車、徒歩約8分

五劫思惟阿弥陀仏坐像(重文) 写真:五劫院

帯解寺 **3月下旬～4月中旬** **さるすべり** **7月下旬～9月中旬** **MAP A d-1**

秘仏・秘宝特別公開 **重文など**

3/1(土)～3/8(土)

お腹に帯を着けているように見える本尊・帯解子安地藏菩薩(重文)は、古くから子授け・安産祈願の霊像として全国から信仰を集めています。その本尊のほか、春日赤童子画像など寺宝の仏像や仏画が特別公開されます。

所 奈良市今市町734 ☎ 0742-61-3861
 行 ●JR帯解駅から北へ徒歩約5分 ●近鉄奈良駅から天理駅行き、下山行きバス「下山」下車、西へ徒歩約10分
 画 https://obitokedera.or.jp/

帯解子安地藏菩薩像(重文) 写真:御飛鳥園

正暦寺 **4月上旬～中旬** **MAP A d-1**

春季特別公開 **重文など**

4/18(金)～5/8(木)

992(正暦3)年、清流と澄んだ空気、新緑の美しい地に創建された古刹。瑠璃殿(収蔵庫)にて、台座に腰を掛け、踏割蓮華の上に足を置く秘仏本尊・薬師如来倚像(重文)や寺宝が特別公開されます。

所 奈良市菩提山町157 ☎ 0742-62-9569
 行 ●JR・近鉄奈良駅からタクシー約25分 ●JR・近鉄天理駅からタクシー約20分
 画 http://shoryakuji.jp/

薬師如来倚像(重文) 写真:正暦寺

喜光寺 **6月下旬～8月上旬** **午前中が見頃** **MAP A a-2**

弁天堂神影 宇賀神(秘仏)特別開扉

6/12(木)～8/11(月)・(祝) ※ロータスロード開催期間中

行基菩薩が創建し、東大寺大仏殿のモデルとして建てられたとされる本堂は「試みの大仏殿」と呼ばれます。特別開扉される宇賀神像は「人頭蛇身」の神秘的なお姿です。夏季には境内が約250鉢のハスの花で彩られます。

所 奈良市菅原町508 ☎ 0742-45-4630
 行 ●近鉄尼ヶ辻駅から徒歩約10分 ●近鉄大和西大寺駅から徒歩約20分 ●JR・近鉄奈良駅から学園前駅(南)行きバス「阪奈菅原」下車すぐ
 画 https://kikouji.com/

宇賀神像 写真:喜光寺

興福寺 **3月下旬～4月下旬** **4月下旬～5月上旬** **MAP A c-2**

三重塔特別公開 **国宝など**

7/7(月) ※弁才天供(10時～)

北円堂と並び興福寺伽藍で最古の三重塔が年に一度の特別開扉。平安時代の趣を伝える塔の初層内陣中央の壁面には東に薬師如来、西に阿弥陀如来、南に釈迦如来、北に弥勒如来がそれぞれ千体描かれています。10時からは僧侶による弁才天供の法要が厳修されます。

所 奈良市登大路町48 ☎ 0742-22-7755
 行 ●JR奈良駅から市内循環バス(県庁前)下車、徒歩すぐ ●近鉄奈良駅から徒歩約5分
 画 https://www.kohfukuji.com/

三重塔(国宝) 写真:興福寺

福智院 **3月～4月** **MAP A c-2**

宝冠十一面観音菩薩立像

3/17(月)～3/23(日)

本尊・地藏菩薩坐像(重文)は総高約7m。地藏大仏と呼ばれ、千仏光背を背負っています。伊勢の裏鬼門を守る十一面観音菩薩立像は宝冠を頭に載せたお姿。明治の廃仏毀釈の後、お迎えした客仏です。

所 奈良市福智院町46 ☎ 0742-22-1358
 行 JR・近鉄奈良駅から天理駅・下山行きバス「福智院町」下車、徒歩すぐ

宝冠十一面観音菩薩立像 写真:御飛鳥園

元興寺 **MAP A c-2**

軸装智光曼荼羅(県指定文化財)

3/17(月)～3/23(日)、9/20(土)～9/26(金)

日本初の本格的寺院・法興寺(飛鳥寺)で平城遷都にともなって新築移転された元興寺。現存する僧坊遺構は極楽坊と呼ばれる浄土発祥の聖地でもあります。奈良時代の僧、智光が夢で見た極楽浄土を描かせたとされる智光曼荼羅の大型軸装本(室町時代作)が彼岸会の期間だけ本堂正面に祀られます。

所 奈良市中院町11 ☎ 0742-23-1377
 行 ●近鉄奈良駅から徒歩約15分 ●JR奈良駅から徒歩約20分
 画 https://gangoji-tera.or.jp/

境内

大安寺 **MAP A b-2**

秘仏・馬頭観音菩薩立像 **重文**

3/1(土)～3/31(月)

聖徳太子が建立した熊凝精舎(くまごりしよんじや)が草創。南都七大寺のひとつです。がん封じ・病氣平癒にご利益ありとされ、馬頭観音菩薩立像は諸悪を食べ尽くし、災厄を除くとされる天平時代の秘仏です。

所 奈良市大安寺2-18-1 ☎ 0742-61-6312
 行 ●JR・近鉄奈良駅からシャープ前、白土町(しらつちちょう)行きバス「大安寺」下車、徒歩約10分 ●JR奈良駅から徒歩約25分
 画 https://www.daiianji.or.jp/

馬頭観音菩薩立像(重文) 写真:御飛鳥園

春日大社 国宝殿 **4月下旬～5月上旬** **MAP A d-2**

特別展 究極の国宝 大鏡展

～日本の工芸技術の粋を集めた甲冑の美の世界～ **国宝など**

7/5(土)～9/7(日)

全国約3000社の春日神社の総本社である春日大社では、特別展「究極の国宝 大鏡展」が開催されます。本展では、“現存甲冑の双璧”とも称される、春日大社の国宝《赤糸威大鏡(竹虎雀飾)》と、櫛引八幡宮(青森県八戸市)の国宝《赤糸威大鏡(菊一文字)》を、史上初めて並列で展示。また、国宝に指定された鏡の半数が一堂に会する、これまでに無い大規模な展覧会です。大鏡の成立や、春日大社と大鏡の製作者である奈良甲冑師との関わり、江戸時代中期から昭和初期に春日大社の大鏡の模造が作られた歴史を踏まえながら、日本の総合芸術の粋といえる大鏡の魅力を探ります。

春日大社所蔵 赤糸威大鏡(竹虎雀飾) (国宝)

櫛引八幡宮所蔵 赤糸威大鏡(菊一文字) (国宝)

所 奈良市春日野町160 ☎ 0742-22-7788
 行 ●JR・近鉄奈良駅から春日大社本殿行きバス終点下車、徒歩すぐ ●JR・近鉄奈良駅から市内循環バス「春日大社表参道」下車、徒歩約10分
 画 https://www.kasugataisha.or.jp/museum/

不空院 **MAP A d-2**

本尊・不空羅索観音菩薩坐像と秘仏・宇賀弁財天 **重文など**

4/26(土)～5/11(日)

縁切り・縁結びで知られる古刹不空院では、本堂にて本尊・不空羅索観音菩薩坐像、2022年に落慶した鎮守堂では宇賀弁財天女坐像が特別公開されます。鎮守堂・内陣は花々の天井画で荘厳されています。

所 奈良市高畑町1365 ☎ 0742-26-2910
 行 JR・近鉄奈良駅から市内循環バス「破石町(わりいしちょう)」下車、徒歩約10分
 画 https://www.fuku-in.com/

宇賀弁財天女坐像 写真:不空院

璉城寺 **MAP A c-2**

阿弥陀如来立像など **重文など**

5/1(木)～5/31(土) ※毎(月)は休み

天平年間開基と伝わる古刹。本尊の阿弥陀如来立像は光明皇后がモデルとされる白く美しい女人のお姿。袴は50年に一度、取り替えられます。本尊と脇侍の木造観音菩薩立像(奈良時代・重文)、木造勢至菩薩立像(室町時代・重文)を特別に拝観できます。

所 奈良市西紀寺町45 ☎ 0742-22-4887
 行 JR・近鉄奈良駅から市内循環(外回り)バス「紀寺町」下車、徒歩約3分

阿弥陀如来立像(県指定文化財) 写真:璉城寺

【東大寺 A d-1】重源上人坐像(国宝)など《俊乗堂》:7/5(土) ※俊乗忌 *法要終了後に特別開扉
【称名寺 A c-1】獨慮庵、本尊・阿弥陀如来坐像(重文)、釈迦如来坐像(重文):5/15(木) ※珠光忌

【慈眼寺 A c-1】聖観音菩薩:3/2(日) ※二の午大法要
【伝香寺 A c-2】地藏菩薩立像(重文)など:本堂特別公開 3/12(木)、※地藏菩薩更衣法要 7/23(水)
【興善寺 A c-2】観経曼陀羅拝観:3/17(月)～3/23(日) ※要予約、9/20(土)～9/26(金) ※要予約

お出かけの際は事前に最新情報をご確認ください。拝観料その他詳細は各社寺にお問い合わせください。(掲載内容は2025年2月現在のものです)

法隆寺 MAP C-1

夢殿本尊救世観音像特別開扉 **国宝**

4/11(金)~5/18(日)

現存する世界最古の木造建築物群(西院伽藍)を有する聖徳太子建立の寺院。太子供養の伽藍として建立された東院伽藍の夢殿(国宝)にて太子等身像と伝わる秘仏・救世観音菩薩立像(国宝)が特別開扉されます。

〒生駒郡斑鳩町法隆寺山内1-1
☎0745-75-2555
🚗 JR法隆寺駅から徒歩行きバス終点下車、徒歩すぐ
●近鉄筒井駅から王寺駅行きバス「法隆寺前」下車、徒歩すぐ
🌐 <https://www.horyuji.or.jp/>



夢殿本尊・観音菩薩立像【救世観音】(国宝) 写真: 柳飛鳥園

松尾寺 MAP C-1


5/15~6/5 7月中

①日本唯一の舎人親王(日本書紀編纂)像
3/20(木)・祝~12/21(日)

②修験道まつり(役行者像等公開)
9/1(月)~9/15(月)・祝

日本書紀を編纂した舎人親王が開基と伝わる日本最古の厄除霊場。日本唯一の舎人親王像や、修験道の開祖で日本最大といわれている役行者像等を公開されます。円空作、役行者像も拝観出来ます。

〒大和郡山山市山田町683 ☎0743-53-5023
🚗 JR大和小泉(東口)から近鉄郡山駅行きバス、または近鉄郡山駅から大和小泉駅東口行きバス「松尾寺口」下車、徒歩約30分 ●JR大和小泉駅から徒歩約45分
🌐 <https://matsuodera.com/>



①舎人親王像 写真: 大和松尾寺


朝護孫子寺 MAP C-2

3月下旬~4月上旬

秘仏・毘沙門天王像
7/1(火)~7/8(火)

「信ずべき貴ぶべき山」信貴山に、毘沙門天王を感得した聖徳太子が創建したと伝わる名刹。寅をシンボルとすることでも知られます。本尊で秘仏の毘沙門天王立像が特別公開され、内陣から間近に拝観することができます。

〒生駒郡平群町信貴山2280-1
☎0745-72-2277(本坊)
🚗 JR・近鉄王寺駅または近鉄信貴山下駅から信貴山門行きバス「信貴大橋」下車、徒歩約5分
🌐 <https://www.sigisan.or.jp/>



信貴山三尊像(お前立) 撮影: 吉田写真店


東明寺 MAP C-1

薬師瑠璃光如来坐像など **重文**

6/1(日)~6/15(日)

舎人親王が持統天皇の眼病平癒を祈って建立。ご本尊・薬師瑠璃光如来坐像や毘沙門天王立像、吉祥天立像(いづれも重文)などが特別公開されます。期間中は予約不要で拝観することができます。

〒大和郡山山市矢田町2230 ☎0743-52-7320
🚗 近鉄郡山駅から小泉駅東口または矢田寺前行きバス「横山口」下車、徒歩約30分
🌐 <http://toumyouji.com/>



本尊・薬師瑠璃光如来坐像(重文) 写真: 柳飛鳥園

極楽寺 MAP C-2

広島大仏・特別御開帳

8/1(金)~8/15(金)

広島大仏は、顔幅と長さがともに4尺(約120cm)と、身体に対して大きめのお顔が特徴の平和を願う仏様。1201年に山形で作成され、廃仏毀釈を経て広島に渡り、終戦を迎え、戦後復興の際行方が分からなくなるも2011年に極楽寺にて発見されました。限定御朱印もあります。

〒生駒郡安堵町東安堵1453
☎0743-57-2231
🚗 JR法隆寺駅からかしの木台一丁目行きバス「安堵町役場」下車、徒歩約5分
🌐 <https://gokurakuji.org/>



広島大仏 写真: 極楽寺


安養寺 MAP C-2

阿弥陀如来立像 **重文**

3/15(土)~3/23(日)、9/20(土)~9/28(日)

江戸時代初期に創建。特別公開される阿弥陀如来立像(重文)は鎌倉時代の仏師・快慶の作品といわれます。ふくよかな容顔や流麗な衣文線(えもんせん)など快慶仏ならではの特色と技法をじっくり拝観できます。毎月25日14:00~写経会も行われています。

〒磯城郡田原本町八尾40
🚗 近鉄田原本駅から徒歩約20分またはタクシー約5分
🌐 <https://anyouji.jp/>
開帳時間等詳細、お問い合わせは安養寺HPをご確認ください



阿弥陀如来立像(重文) 写真: 田原本町教育委員会

東鳴川観音講(応現寺) MAP A-2

不空縹索観音菩薩坐像 **重文**

毎月第一日曜日

奈良市と京都府の県境に接する東鳴川町に伝わる諸尊を守る観音講。不空縹索観音菩薩坐像は興福寺南円堂が焼失する以前の本尊を模したとされる平安後期の貴重な仏像です。

〒奈良市東鳴川町31 応現寺
☎0742-34-5369(奈良市教育委員会文化財課)
🚗 JR・近鉄奈良駅から下狭川または広岡行きバス「東鳴川」下車、徒歩約5分
🌐 <https://www.city.nara.lg.jp/site/bunkazai/10591.html>



不空縹索観音菩薩坐像(重文) 写真: 奈良市教育委員会

薬師寺 MAP A-2


3月下旬~4月上旬 7月~8月中旬

①三大壁画特別公開
②国宝東塔・西塔特別開扉 **国宝**

①24/26(土)~5/6(火)・(祝)

天武天皇が皇后(後の持統天皇)の病氣平癒を祈願して建立したと伝わる薬師寺。金堂を中心に東塔と西塔の2つの三重塔を配し、講堂、回廊が建ち並び華麗な伽藍です。三大壁画特別公開として玄奘三蔵院伽藍の「大唐西域壁画」、食堂の「阿彌陀三尊浄土図」、「仏教伝来の道と薬師寺」、慈恩殿の大障壁画「東と西の融合」を公開。同時に東塔(国宝)西塔が特別開扉されます。(塔の中にはお入りできません)。

〒奈良市西ノ京町457
☎0742-33-6001
🚗 近鉄西ノ京駅から徒歩すぐ
●JR・近鉄奈良駅から奈良県総合医療センター行きバス「薬師寺」下車、徒歩すぐ
🌐 <https://www.yakushiji.or.jp/>



②東塔(国宝) 写真: 薬師寺



①玄奘三蔵院伽藍 大唐西域壁画



①食堂ご本尊・阿彌陀三尊浄土図 仏教伝来の道と薬師寺



①慈恩殿 東と西の融合 写真: 薬師寺

岩船寺 MAP A-2

4月上旬 4月~7月 6月上旬~7月上旬

①秘仏・如意輪観音菩薩、秘仏・弁財天、秘仏・羅刹天
4/1(火)~5/31(土)

②三重塔初層特別開扉 **重文**

4/26(土)~5/6(火)・(祝) ※雨天・荒天時は塔開扉中止の場合あり

約5000株のあじさいで有名な花の御寺。3体の秘仏が特別公開される他、ゴールデンウィークには三重塔初層の色鮮やかな内部壁画も拝観できます。

〒京都府木津川市加茂町岩船上ノ門43
☎0774-76-3390
🚗 JR加茂駅から加茂山の家行きバス「岩船寺」下車、徒歩すぐ
🌐 <https://gansenji.or.jp/>



①秘仏・弁財天像 写真: 柳飛鳥園

現光寺 MAP A-1

本尊・十一面観音坐像 **重文**

5/3(土)・祝~5/5(月)・祝

現光寺の収蔵庫に安置される本尊・木造十一面観音坐像(重文)は、慶派の仏師作と推定される全国にも数体という珍しい坐像のお姿です。復理完成後の四天王像もあわせて特別公開。

〒京都府木津川市加茂町北山ノ上9
☎0774-76-2256
(海住山寺までお問い合わせください)
🚗 JR加茂駅東口から徒歩約15分、お寺付近は道幅狭小・境内に駐車場はありません



十一面観音坐像(重文) 写真: 柳飛鳥園

浄瑠璃寺 MAP A-2

8月下旬

①秘仏・吉祥天女立像 **重文**

3/21(金)~5/20(火)

②三重塔初層開扉・薬師如来坐像 **重文**

毎月8日、3/20(木)・祝、9/23(火)・祝 (ただし好天の日に限る)


平安時代の浄土式庭園と九体阿弥陀如来像を安置する本堂(国宝)を持つ名刹。厨子入りの吉祥天女立像や三重塔(国宝)初層内陣の薬師如来坐像が公開されます。

〒京都府木津川市加茂町西小札場40
☎0774-76-2390
🚗 JR加茂駅から加茂山の家行きバス「浄瑠璃寺前(浄瑠璃寺)」下車、徒歩約3分



①吉祥天女立像(重文) 写真: 柳飛鳥園

◆ 朝のお参り・朝の勤行 ◆ 一般参拝いただける朝のお参りと朝の勤行をご紹介します。
※祭典や行事などで実施されない場合がありますので、事前に各社寺にお問合せ下さい。

<p>春日大社 P3-8 MAP A-d-2 ☎0742-22-7788</p> <p>◎朝のお参り(朝拜) 午前8時50分頃~ ※春日大社公式ホームページで日程公開</p> <p>興善寺 P8 MAP A-c-2 ☎0742-23-7007</p> <p>◎朝の勤行 午前7時~ ※要予約</p> <p>十輪院 MAP A-c-2 ☎0742-26-6635</p> <p>◎朝の勤行 午前8時半~ 体験作務 午前8時~ ※月曜休(祝日の場合は翌火曜)、予約不要</p>	<p>朝護孫子寺 P11 MAP C-b-2 ☎0745-72-2277</p> <p>◎修行代(しゅぎょうだい)(修法と勤行)</p> <p>極楽寺 P11 MAP C-c-2 ☎0743-57-2231</p> <p>◎朝のお勤め、朝茶の会(法話とお茶) 午前8時~9時 ※要予約</p> <p>石上神宮 MAP A-a-1 ☎0743-62-0900</p> <p>◎朝拜(ちょうはい) 午前8時半~</p> <p>金峯山寺 P3-5-13 MAP C-2 ☎0746-32-8371</p> <p>◎蔵王堂 朝座勤行(あさごんぎんぎょう) ※御開帳期間のみ有料</p>	<p>長谷寺 P13 MAP I-a-1 ☎0744-47-7001</p> <p>◎朝の勤行 4月~9月 午前6時半~ 10月~3月 午前7時~ ※受付は30分前から、団体の場合は要予約</p>  <p>写真は極楽寺の朝のお勤めの様子</p>
---	--	---

矢田寺 MAP C-1

5月下旬~7月上旬

地蔵菩薩立像、閻魔堂 **重文**

6/1(日)~6/30(月)

天武天皇が開基に関係する古刹。「矢田のお地蔵さん」と親しまれ、境内に無数のアジサイが咲き誇る頃、本堂で本尊・地蔵菩薩立像などを拝観できます。閻魔堂を安置する閻魔堂も特別公開されます。

〒大和郡山山市矢田町3506
☎0743-53-1445
🚗 近鉄郡山駅から矢田寺前行きバス終点下車徒歩約10分
🌐 <http://www.yatadera.or.jp/>



地蔵菩薩立像(重文) 写真: 矢田寺


海住山寺 MAP A-1

春の寺宝特別公開 **重文**

4/26(土)~5/6(火)・(祝)

天平7(735)年、聖武天皇が東大寺大仏造立平安祈願のため、良弁僧正に命じて建立されたと伝わる古刹。数々の寺宝とともに、初重に裳階(もこし)がついた国宝・五重塔(内陣の公開は秋のみ)も必見です。

〒京都府木津川市加茂町例幣海住山20
☎0774-76-2256
🚗 JR加茂駅西口から奥畑行きバス「海住山寺口」下車、徒歩約20分(※バスは平日のみ運行)
●JR加茂駅西口から和束町原山行きバス「岡崎(加茂)」下車、徒歩約30分 ●JR加茂駅からタクシー約10分
🌐 <http://www.kaijyusenji.jp/>



五重塔(国宝) 写真: 柳飛鳥園

【法隆寺 C-1】妙見菩薩立像など:4/15(火) ※妙見会式



石光寺 牡丹 4月中旬～下旬 芍薬 5月上旬～中旬 さるすべり 8月上旬～中旬 MAP a-1

日本最古の石仏開帳
4/14(月)～5/14(水)

當麻曼荼羅を織った中将姫ゆかりの「染の井」糸掛桜が現存する寺院で、境内で発掘された、7世紀末頃の弥勒石仏が公開されます。例年、牡丹や芍薬が期間中に見頃を迎えます。

〒葛城市染野387 ☎0745-48-2031
●近鉄二上神社口(にじょうじんじやくち)駅から徒歩約13分
●近鉄当麻寺駅から徒歩約20分
https://sekkouji.or.jp/

弥勒如来石仏 写真:石光寺

當麻寺 中之坊 睡蓮 5月中旬～9月上旬 MAP a-1

①春季特別展「中将姫」
4/13(日)～5/6(火)・(曜)

②夏季企画展「江戸時代の版木」
6/1(日)～8/31(日)

③導き観音(平安時代・重要美術品)
毎月16日 13時30分～15時 ※祈願会参加者のみ

春季特別展では、靈宝殿にて中将姫が一夜で織った伝説の『當麻曼荼羅』の鎌倉時代の古写本や、中将姫直筆の経巻『称讃浄土經』(奈良時代)などが公開。また、夏季企画展では當麻曼荼羅や十一面観音像など江戸時代の版木十数点を一堂に公開。相撲圖や歌舞伎絵などかわったものも公開されます。毎月16日に拝観可能な導き観音は中将姫の守り本尊だといわれている十一面観音像です。

①絹本着色當麻曼荼羅 写真:當麻寺 中之坊
②當麻曼荼羅版面 写真:當麻寺 中之坊
③歌舞伎版面 写真:當麻寺 中之坊

〒葛城市當麻1263 ☎0745-48-2001
●近鉄当麻寺駅から徒歩約15分
https://www.taimadera.org/

櫻本坊 桜 4月上旬～下旬 MAP c-2

釈迦如来坐像 重文
3/29(土)～4/8(火)

天武天皇が桜の吉夢を見て創建した天武・持統天皇の勅願寺。神仏習合の修験道場としても知られている古刹で、白鳳時代の天武天皇ご念持仏である釈迦如来坐像(重文)が特別公開されます。

〒吉野郡吉野町吉野山1269 ☎0746-32-5011
●近鉄吉野駅から徒歩約40分またはタクシー約10分
https://sakuramotobou.or.jp/

釈迦如来坐像(重文) 写真:熊飛鳥園

橘寺 桜 3月下旬～4月中旬 MAP a-2

聖倉殿(収蔵庫)特別公開 重文など
4/19(土)～5/6(火)・(曜)

聖徳太子生誕の地といわれ、太子建立の7カ寺の一つ。本堂の太子殿には、聖徳太子35歳の像(重文)が安置されています。聖倉殿にて伝・日羅立像(重文)や絹本着色太子絵伝が特別公開されます。往生院では、260点にもおよび華の天井画を拝観することができます。

〒高市郡明日香村橘532 ☎0744-54-2026
●近鉄飛鳥駅または近鉄橿原神宮前駅から明日香周遊バス「岡橋本」または「川原」下車、いずれも徒歩約3分
https://tachibanadera-asuka.jimdofree.com/

伝・日羅立像(重文) 写真:熊飛鳥園

榮山寺 山吹 4月下旬～5月上旬 MAP a-2

①本尊・薬師如来坐像 重文
②八角円堂内陣装飾画特別拝観 国宝など
③4/25(金)～5/25(日)

藤原不比等の長男・武智麻呂が創建。内陣に天平時代の極彩色壁画、仏画が残る国宝・八角円堂は、法隆寺夢殿と並ぶ貴重な天平建築として優美な姿を見せてくれます。

〒五條市小島町503 ☎0747-24-5557
●JR五條駅から八木駅(南)行きバス「榮山寺口」下車、徒歩約10分(※バス本数少ない) ●JR五條駅から徒歩約25分またはタクシー約5分
https://www.eisanji.com/

①本尊・薬師如来坐像(重文) 写真:榮山寺

金峯山寺 桜 4月上旬～下旬 MAP c-2

日本最大 秘仏本尊金剛蔵王大権現 特別ご開帳 重文
3/28(金)～5/6(火)・(曜)

修験道の根本道場で、その開祖・役行者が感得したと伝わる日本最大秘仏・金剛蔵王大権現三尊(重文)が本尊。吉野山の桜も見頃を迎える時期に国宝仁王門修理勸進のため御開帳されます。像高約7mの青いお姿は必見です。

〒吉野郡吉野町吉野山2498 ☎0746-32-8371
●近鉄吉野駅から徒歩約30分またはロープウェイ「吉野山」下車、徒歩約10分
https://www.kinpusen.or.jp/

秘仏金剛蔵王権現像【中尊】(重文) 写真:金峯山寺

室生寺 MAP c-1

金堂特別拝観 国宝など
3/29(土)～5/6(火)・(曜) ※期間中拝観された方には特別懐中御守を授与

平安初期建立の国宝の金堂。通常拝観では立ち入ることのできない外陣にお入りいただきいつもより近い距離で国宝釈迦如来立像、重文薬師如来像、文珠菩薩像、十二神将をご拝観していただけます。特別拝観をされた方はスマートフォン限定で堂内での撮影が可能です。

〒宇陀市室生78 ☎0745-93-2003
●近鉄室生口大野駅から室生寺行きバス終点下車、徒歩約5分
http://www.murouji.or.jp/

金堂(国宝) 写真:室生寺

長谷寺 桜 3月中旬～4月中旬 牡丹 4月中旬～5月上旬 あじさい 5月下旬～7月上旬 MAP a-1

①本尊大観音尊像 春季特別拝観 重文
②春季特別寺宝展(宗宝蔵) 重文など
③3/15(土)～7/6(日)

日本最大級の木造仏、本尊・十一面観世音菩薩立像。普段は尊顔のみの拝観ですが、特別拝観では、お御足に触れてご縁を結んでいただけます。

〒桜井市初瀬731-1 ☎0744-47-7001
●近鉄長谷寺駅から徒歩約15分
https://www.hasedera.or.jp/

①本尊・十一面観世音菩薩立像(重文) 写真:長谷寺

橿原神宮 つつじ 4月中旬～5月下旬 MAP a-1

第4回 織田家柳本陣屋御殿「文華殿」保存修理特別公開 重文
4/19(土)・20(日)、4/26(土)～5/6(火)・(曜)

文華殿は、織田有楽斎(うらくさい)の五男・尚長(ひさなが)を藩祖とする柳本藩陣屋御殿を天理市柳本町より移築した建物。令和2年より奈良県に委託し保存修理が進められ、現在、屋根瓦の葺替え工事が終わり建物内部の工事が行われています。期間中、建物内部の貴重な修理中の様子を特別公開します。

〒橿原市久米町934 ☎0744-22-3271
●近鉄橿原神宮前駅から徒歩約10分
https://kashiharajingu.or.jp/

昭和42年に移築された「文華殿」(重文) 写真:奈良県

壺阪寺 桜 3月下旬～4月中旬 山吹 4月中旬～4月下旬 あじさい 6月中旬～7月上旬 MAP a-2

大難曼荼羅 2/23(日)・(曜)～4/20(日)
②二大塔同時開扉
4/26(土)～7/6(日)

眼病に靈験あらたかな古刹。4,000体以上のお雛様が並ぶ大難曼荼羅は壮観。重文・三重塔と多宝塔の開扉、本尊の十一面千手観世音菩薩に浄布で触れられるお身拭い結縁が同時に開催されます。

〒高市郡高取町壺阪3 ☎0744-52-2016
●近鉄壺阪山駅から壺阪寺前行きバス終点下車、徒歩すく
https://www.tsubosaka1300.or.jp/

本尊・十一面千手観世音菩薩坐像(撮影:藤井金治)

岡寺 石楠花 4月中旬～5月上旬 MAP b-2

本堂内々陣お扉特別開扉 重文
4/1(火)～6/29(日)

西国第7番札所の厄除け霊場。高さ4.85mの本尊・如意輪観音坐像は日本最大の塑像(土でできた仏像)で、迫力ある全身を拝観できます。また厄除の観音様としても信仰を集めています。ゴールデンウィークに『華の池～水面に浮かぶ天竺牡丹～』が開催されます。

〒高市郡明日香村岡806 ☎0744-54-2007
●近鉄飛鳥駅または近鉄橿原神宮前駅から明日香周遊バス「岡寺前」下車、徒歩約10分
https://www.okadera3307.com/

塑造 如意輪観音坐像(重文) 写真:岡寺

寶山寺 MAP a-2

獅子閣 重文
5/3(土)・(曜)～5/5(月)・(曜)、9/23(火)・(曜)

本堂本尊・不動明王像に加え、聖天堂に大聖歡喜天が祀られ、「生駒の聖天さん」として、信仰を集めています。獅子閣は明治17年落慶の洋風客殿。木製螺旋階段や色ガラス入りの扉・窓、2階ベランダ、細部に凝った造作は必見です。

〒生駒市門前町1-1 ☎0743-73-2006
●近鉄生駒駅からケーブル「宝山寺」下車、徒歩約10分
https://www.hozanji.com/

獅子閣内部(重文) 写真:飛鳥園

おふさ観音 バラ 5月中旬～6月中旬 MAP a-1

①本尊・十一面観音菩薩立像
4/17(木)・4/18(金)

②秘宝・生き人形、寺宝公開
5/15(木)～9/30(火)

厨子内に安置される秘仏本尊を拝観できるのは年に2日間だけ。また寺宝の公開期間中はバラや風鈴が境内を彩ります。

〒橿原市小房町6-22 ☎0744-22-2212
●近鉄大和八木駅から下り口駅行き、近鉄御所駅行きバス「小房(おふさ)」下車、徒歩約5分
●近鉄大和八木駅から徒歩約25分またはタクシーで約10分 ●JR畷傍駅から徒歩約10分
https://www.ofusa.jp/

バラまつり 写真:おふさ観音

談山神社 桜 4月上旬～中旬 MAP b-2

談峯如意輪観音菩薩坐像
6/1(日)～7/31(木)

中大兄皇子と中臣鎌足(のち藤原鎌足)が国政改新の策を談合した多武峰(とうのみね)に建つ古社。ご祭神は鎌足公。世界唯一の木造十三重塔が壮麗です。足腰の病や出世、災難除けに靈験あらたかとされる秘仏が特別公開されます。

〒桜井市多武峰319 ☎0744-49-0001
●JR・近鉄桜井駅から談山神社行きバス終点下車、徒歩約3分
https://www.tanzan.or.jp/

談峯如意輪観音菩薩坐像 写真:談山神社

安倍文殊院 桜 3月下旬～4月上旬 コスモス 9月中旬～10月下旬 MAP a-2

①金閣浮御堂靈宝館 春夏の寺宝展 国宝など
春:3/1(日)～5/31(土)、夏:6/1(日)～8/31(日)

②秘仏・十二天
4/26(土)～5/6(火)・(曜)

安倍仲麻呂御尊像や秘仏を拝観できるほか、大型連休中のみ秘仏・十二天軸がすべてそろって公開されます。

〒桜井市阿部645 ☎0744-43-0002
●JR・近鉄桜井駅から桜井市コミュニティバスまたは石舞台行きバス「安倍文殊院」下車、徒歩すく ●JR・近鉄桜井駅から徒歩約20分またはタクシー約5分
https://www.abemonjuin.or.jp/

本堂 写真:安倍文殊院

【船宿寺】(a-1) 薬師如来坐像:4/26(土) ※開山1300年花法会 ※吉野山の観桜期臨時バスについては、奈良交通ホームページ(https://www.narakotsu.co.jp/)にてご確認ください。

【靈山寺】(b-2) 薬師三尊像(重文):5/18(日) ※舊戒会式と祭り
【當麻寺】(a-1) 裏板曼荼羅、板光背など『曼荼羅堂』:4/13(日)～4/15(火)
【當麻寺 奥院】(a-1) 奥院御影堂(本堂・重文) 特別拝観:4/12(土)～5/6(火)・(曜)
お出かけの際は事前に最新情報をご確認ください。拝観料その他詳細は各社寺にお問い合わせください。(掲載内容は2025年2月現在のものです)

祈りの回廊



ならづひこじんじや たつみしんいち
奈良豆比古神社 宮司 辰己眞一氏
 1949年生まれ。翁舞の演者を務め、2019年から奈良豆比古神社宮司として奉職。「地域の方々、崇敬者の皆さんにとって心の拠り所、気持ちの休まる場所をご提供していきたい」。

特別講話 51

能楽の源流「翁舞」や樟の巨樹を、未来へ守り伝える

—奈良豆比古神社は大変古いお社ですね。

宝龜2年（771）、光仁天皇により創建されました。三神殿あり、中央に産土の神である平城津彦神、向かって右の北側に光仁天皇のお父さまである施基親王、左の南側にお兄さまである春日王をお祀りしています。この春日王が療養をしていたとき、春日王の息子の浄人王と安貴王が舞を奉納し病氣平癒を祈願しました。それが能の源流といわれる「翁舞」の始まりです。「奈良坊目拙解」では「浄人王は散楽、俳優※1を好まれ、この芸をもって父王の病氣の平癒を祈願されたところ神靈によって病氣は全快した。世にいう申楽・能楽・翁三番叟で、この面は浄人王からはじまった」と当社の縁起が引かれています。

—「翁舞」は地元の皆さんで傳承して来られたと伺いました。配役など役割分担をして毎年

10月8日の宵宮祭で三人の翁が登場する舞を奉納しています。平成12年（2000）には国の重要無形民俗文化財に指定されました。地元の「翁講」で傳承してきましたが、少子高齢化が進んだ現在、「翁舞保存会」として様々な方にお力添えを願って、なんとしても繼承せねばと努めています。「翁舞」で用いる面を含め、当社には20の面が伝わっていき、普段は奈良国立博物館にお預けしており、「翁舞」を奉納するときは、太夫・脇二面・三番叟の四面を使用します。また「翁舞」では使

いませんが、「ベシ見」というお面には「応永二十年※2二月、千草左衛門大夫作」の銘があり、国の重要文化財となっています。千草左衛門大夫は当時の日本能面師のなかで五指に入ると言われた人でした。

—もう一つのシンボリック存在が樟でしょうか。

春日王が隠居されたことが「大木繁る平城山の一社に隠居さる」という文言で伝わっています。当社ができて1254年目ですが当時すでに大木だったということなので、樹齢は1500〜1600年の樟になるかもしれません。奈良県の天然記念物第一号です。最近、木の周辺を整備しまして、樟のそばに降りられるようになりまし



奈良県奈良市奈良阪町 2489
 MAP P22 A C-1
 0742-23-1025
 JR・近鉄奈良駅から州見台八丁目・青山住宅行バス13分「奈良阪」下車徒歩約5分

（※1）現代の「俳優」は一般的に役者を指すが、ここでは日本の古典芸能、特に雅楽、伎楽において歌や舞そのもの、またはその演者を指す言葉。
 （※2）1413年



WEBでダイジェストムービーが見れます！

特別講話



あんようじ まつしませいろう
安養寺 住職 松島靖朗 師
 奈良県生まれ。一条高校外国語科、早稲田大学卒業。NTTデータ、アイスタイルで企業経営に従事後、2010年に僧侶となる。「おてらおやつクラブ」が2018年度グッドデザイン賞大賞を受賞。

特別講話 52

仏さまは誰一人見捨てない救いの存在

—安養寺のご由緒などお聞かせください。

寛永10年（1633）創建、源蓮社宝誉上人の開山と伝えられるお寺です。ご本尊さまは阿彌陀如来坐像、また昭和60年（1985）に国の重要文化財に指定された阿彌陀如来立像もお祀りしています。寺の前を通る道は中街道。古代には下ツ道と呼ばれ藤原京と平城京を結んでいました。安養寺のある田原本町が交通の要所だったことを今に伝える道です。

—重要文化財の仏像は快慶作と伺いました。

快慶の別名である「巧匠安阿彌陀佛」の墨書きが見つかり、仏師・快慶作と判明しました。衣文線などにも特徴がよく現れていて、仏師として脂の乗り切った壮年期の作とされています。近年は奈良県庁の皆様にもご協力いただき、年に2回春と秋に特別ご開帳日※1を

設けています。特別ご開帳の際には、遠くにお住まいのご参拝者さんもおいでくださっています。

—松島さんが発起人の「おてらおやつクラブ」とは？

「仏さまへのおそなえものを困窮する家庭におさがりとしておすそわけ」する活動です。きっかけは大阪で起きた母子の餓死でした。私が二度とこんな悲劇をおこしてはならないと考えたのが「おてらおやつクラブ」です。仏さまは誰一人見捨てない救いの存在だから、おすそわけをすることは仏さまの願いにかなうはずとの思いで続けてきました。平成26年（2014）スタートなので丸

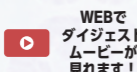
10年経ちました。おかげさまで活動の輪は仏教の宗派を超え、神社、キリスト教会、天理教の方々もご参加くださり、日本全国47都道府県に広がっています。昨秋には「おてらおやつク



WEBでダイジェストムービーが見れます！



磯城郡田原本町八尾 40
 MAP P23 C 4-2
 近鉄田原本駅から徒歩約20分またはタクシー約5分
<https://anyouji.jp/>



WEBでダイジェストムービーが見れます！

奈良県観光プロモーション 公式YouTubeチャンネルで、特別講話のダイジェストムービーを視聴することができます。過去の特別講話ダイジェストムービーや、その他、様々な奈良県観光PR動画も発信しています。





井市)の「十一面観音立像」は、昭和26年の新国宝制度発足時の第一回に国宝として選ばれたもの。室生寺(宇陀市)には「十一面観音立像」や「釈迦如来坐像」があり、ともに平安時代を代表する仏像です。安倍文殊院(桜井市)の本尊「騎獅文殊菩薩像」は快慶の作で、約7mもあり、文殊菩薩像としては日本一の大きさです。

本年4月19日〜6月15日まで、奈良国立博物館では「超国宝」展が開催されます。日本に5つある国立博物館のうち、仏教美術を中心に収蔵する同館の「超国宝」展は、選りすぐりの仏教・神道美術で構成されているとのこと。この機会に、国宝仏をテーマに、奈良をめぐってみてはいかがでしょうか。

国宝の みほとけを 巡る奈良

全国の国宝指定彫刻の件数は141件。奈良にその半数以上が存在しています。この春は、奈良国立博物館で「超国宝」展も開催。奈良県内の国宝彫刻に注目が集まります。

當麻寺 国宝 弥勒仏坐像



国宝建築物の数も

1位

奈良県は国宝建造物の数でも全国1位を誇り、そのほとんどが仏教建築です。一部は国宝として指定されるだけでなく、世界遺産の構成資産となっており、当時の文化と技術を現代に伝えるものとして、国際的な評価を受けているといえます。特に法隆寺の金堂や五重塔は、耐久性のある建造物だけでなく、耐久性の低い木造のような建造物も認められるよう、評価基準が見直されるきっかけになった木造建築です。

奈良県内には他にも注目したい国宝建造物が多数あります。般若寺(奈良市)の楼門は鎌倉時代のもですが、楼閣づくりの楼門の遺構としては日本最古です。榮山寺(五條市)の八角円堂は奈良時代に建てられた仏堂です。堂内には極彩色の装飾画が今も残っています。国宝仏像とともにこれらの建造物にも注目してください。

榮山寺 国宝 八角円堂



奈良県の国宝彫刻の指定件数実に76件

寄託※=奈良国立博物館



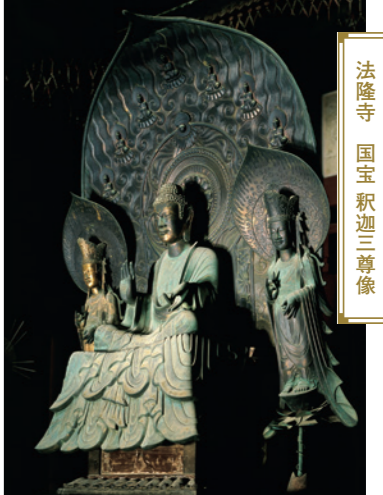
上記、国指定の彫刻について、寄託や貸出で所有者の元に安置されていないものや、通常安置されているお堂の修復等によって、一時的に博物館等に寄託されているものがあります。また、所有者の元に安置されているが、秘仏として常時拝観できない仏像や彫刻もあります。参拝される前に、各寺院・施設の情報をご確認ください。彫刻の名称については、国が指定・登録し、文化庁が公開している情報に基づき、一部わかりやすい表記に改めています。(https://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index)



聖林寺 国宝 十一面観音立像

奈良県は国宝仏が多く存在する理由は、その歴史的背景にあります。朝鮮半島から伝来した仏教は、首都であった飛鳥の地を中心に国家的な仏教興隆の動きを得て、多くの寺院が建立され、仏像も盛んに造立されるようになり、特に聖武天皇の時代は、仏教の力で国を平和にしようとする鎮護国家思想が強く、仏教美術と遣唐使がもたらした文化が融合した天平文化が生まれ、日本の文化史・美術史に大きな影響を与えました。

都が平安京に遷った後も、南都六宗の寺院は奈良に残りました。特に、権力を握り続ける藤原氏の氏寺である興福寺(奈良市)とその周辺は、貴族の参詣先であり、物見遊山先と点しています。當麻寺(葛城市)の本尊「弥勒仏坐像」は飛鳥時代の仏像で、塑像としては日本最古です。流れるような衣文表現と端正な美しさで知られる聖林寺(桜井市)の「十一面観音立像」は、奈良県の中でも特に知られているのが東大寺(奈良市)の「盧舍那仏像(大仏)」や興福寺の「阿修羅像」が挙げられます。また、興福寺と、法隆寺(斑鳩町)はどちらも国宝彫刻の指定18件と全国一です。中南和地域にも多くの国宝仏が点在しています。當麻寺(葛城市)の「十一面観音立像」は、奈良の地で祈りの対象として仏像を大切にしながら、造立技術が継承され、優れた仏像を生みだしてきたのです。



法隆寺 国宝 釈迦三尊像

「国宝」とは、文化財保護法に基づき「我が国にとって極めて重要な歴史的・芸術的価値を有するもの」として指定されたものをいいます。奈良県は国宝に指定された文化財の件数で全国3位。その中でも、彫刻に関しては全国1位。その多くが「仏像」です。

奈良に国宝仏が多く存在する理由は、その歴史的背景にあります。朝鮮半島から伝来した仏教は、首都であった飛鳥の地を中心に国家的な仏教興隆の動きを得て、多くの寺院が建立され、仏像も盛んに造立されるようになり、特に聖武天皇の時代は、仏教の力で国を平和にしようとする鎮護国家思想が強く、仏教美術と遣唐使がもたらした文化が融合した天平文化が生まれ、日本の文化史・美術史に大きな影響を与えました。

都が平安京に遷った後も、南都六宗の寺院は奈良に残りました。特に、権力を握り続ける藤原氏の氏寺である興福寺(奈良市)とその周辺は、貴族の参詣先であり、物見遊山先と点しています。當麻寺(葛城市)の本尊「弥勒仏坐像」は飛鳥時代の仏像で、塑像としては日本最古です。流れるような衣文表現と端正な美しさで知られる聖林寺(桜井市)の「十一面観音立像」は、奈良県の中でも特に知られているのが東大寺(奈良市)の「盧舍那仏像(大仏)」や興福寺の「阿修羅像」が挙げられます。また、興福寺と、法隆寺(斑鳩町)はどちらも国宝彫刻の指定18件と全国一です。中南和地域にも多くの国宝仏が点在しています。當麻寺(葛城市)の「十一面観音立像」は、奈良の地で祈りの対象として仏像を大切にしながら、造立技術が継承され、優れた仏像を生みだしてきたのです。

奈良国立博物館 130年の歩み

- 明治元年(1868)**
明治政府が神仏分離令を交付。神道を中心にした国づくりを目指して交付されたこの法令により、日本各地で寺院の廃絶や仏像の流出がはじまる(廃仏毀釈)。
- 明治4年(1871)**
文部省内に博物館を設置。
- 明治6年(1873)**
ウィーン万博に日本政府として初めて公式参加。万博の成功を通じて、物品を展示することで、文化を外に伝え、逆に外の文化を人々に伝えることができるという価値観が生じるようになった。
- 明治8年(1875)**
東大寺大仏殿を会場として「奈良博覧会」が開かれ、正倉院宝物をはじめとした貴重な宝物類が陳列された。これにより、廃仏毀釈により散逸の恐れがあった仏像や寺宝が、「文化の貴重な遺産」として一般に認識されるようになった。
- 明治22年(1889)**
帝国博物館(東京)、帝国京都博物館とともに「帝国奈良博物館」を設置することが決定した。特に、奈良に国立博物館を設置する趣旨としては、社寺に関する文化財を保管・公開し、価値を広く世間に知らせ、保護に協力することにあった。
- 明治28年(1895)**
開館(当時の名称は帝国奈良博物館)。
- 明治33年(1900)**
奈良帝室博物館に改称。
- 昭和21年(1946)**
「第1回正倉院展」を開催。
- 昭和22年(1947)**
国立博物館奈良分館と改称。
- 昭和25年(1950)**
文化財保護委員会附属機関となる。
- 昭和27年(1952)**
東京国立博物館の分館から独立して奈良国立博物館となる。
- 昭和43年(1968)**
文化庁が発足し、文化庁の附属機関となる。
- 昭和47年(1972)**
陳列館新館(西新館)完成。
- 昭和55年(1980)**
仏教美術資料研究センターを設立。仏教美術に関する調査研究、資料の作成、収集、整理、保管およびその公開を行う。
- 平成9年(1997)**
東新館完成。
- 平成14年(2002)**
文化財保存修理所が開所。国宝・重要文化財など、文化財の修理を受け入れている。
- 平成19年(2007)**
独立行政法人国立文化財機構 奈良国立博物館となる。



竣工時の本館
(現・なら仏像館)



国宝 刺繍釈迦如来説法図 (奈良国立博物館)
展示期間：4月19日～5月18日



円成寺 国宝 大日如来坐像

この展示は、この展示は国宝の聖地、奈良全体を知っていただく展示会です。当館では奈良にゆかりのある文化財を展示会で紹介しますが、来場される方には、この展示会だけ

来館される方にメッセージを
お願ひします。

薩半跏像は如意輪観音と伝えられてきましたが、56億年後に衆生を救いにくる弥勒菩薩として造られたとも考えられています。未来の仏を最後の部屋に配置することで、文化財を未来へつなげる意図を感じていただきたいです。(※中宮寺の菩薩半跏像は後期展示のみ) 照明は表面の質感を引き立たせ、陰影が際立つように調整し、静謐な空間に仕上げることで、特別な気持ちになれるような展示を目指しています。

で完結するのではなく、可能な限り現地に足を運んでいただき、当館が130年の歴史の中でお世話になってきた仏像・神像を見て頂きたいと思えます。今回の展示会や、仏像館をきっかけに、奈良全体の仏像へ関心を広げていただければ幸いです。文化財はただ保存するだけでなく、その価値を次世代に伝えていくことが重要です。私たちは、その役割を担うべく日々取り組んでいます。この「超国宝」展が、過去の文化財を鑑賞するだけでなく、それを未来にどうつなげていくかを考えるきっかけになればと思っています。また、今回の展示会は、前期と後期で大きな展示替えを予定しています。どちらの会期にもそれぞれの魅力がありますので、ぜひ何度も足を運んでいただければと思います。

奈良国立博物館

P22 奈良市登大路町 50
050-5542-8600



奈良国立博物館
学芸員の
岩井共二さんに
聞いてみました

「超国宝」というタイトルは、非常に印象的です。

この言葉には、「すごい」という意味だけでなく、「超える」という意図も込めています。「国宝」は非常に重要な基準ですが、それだけにとらわれず、美術的・歴史的価値を持つ文化財を幅広く紹介したいという思いを込めました。タイトルを決める過程ではいろいろと悩みましたが、最終的にはシンプルで覚えやすいこの言葉に落ち着きました。「超」というフレーズには少し驚かれる方もいるかもしれませんが、それくらい意気込みで、観覧者の皆さんに新たな感動を届けたいと思っています。

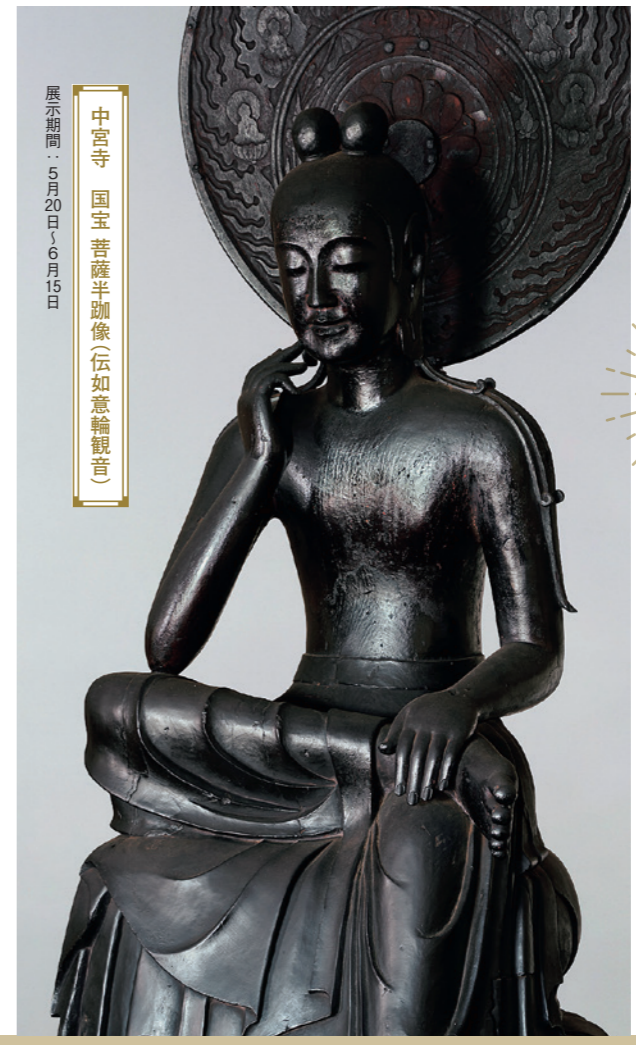
今回はどのような展示会なのか。

当館は基本的に仏教・神道美術を中心に活動してきた館で、過去から現在まで、奈良の多くの社寺の収蔵品を修復したり、預かったりしてきた経緯があります。そういった背景から、かつて当館が預かっていた神仏や展示会で紹介した名品を一堂に集めた、いわば同窓会のような展示会を目指しました。

130年目の大ニュース

奈良国立博物館開館記念に

『超 国宝』集まる!



中宮寺 国宝 菩薩半跏像(伝如意輪観音)
展示期間：5月20日～6月15日

展示構成は大きく7つの章に分かれていて、前半は奈良国立博物館誕生にかかわる名品や資料を紹介し、後半は、奈良国立博物館が取り組んできた仏教美術のテーマにそって名品の数々を紹介しています。文化財をどのように保存し、次の世代へ伝えていくか、これを改めて考える機会にしたいと思います。

今回の展示会で特に工夫している部分などを教えてください。

今回特に力を入れているのは、展示空間の演出です。どのように見せるかで印象が大きく変わります。例えば「釈迦を慕う」という章では、京都の清涼寺の釈迦如来像を展示します。この像は真言律宗の祖・観尊をはじめ、律宗の僧たちに支持され、その模様が各地で造られました。その釈迦如来像と、西大寺の観尊像を同じ空間に展示します。(※ただし両像とも後期展示のみ) また、中宮寺の菩薩半跏像の展示には、特別な一室を設ける予定です。中宮寺の菩



奈良国立博物館開館130年記念特別展「超 国宝 ―祈りのかがやき―」
会期：2025年4月19日(土)～6月15日(日) (休館日、開催時間などはホームページにて確認ください)
開館130周年の記念すべき年に、開館以来はじめての大規模な「国宝展」を開催。中宮寺の菩薩半跏像や法隆寺の観音菩薩立像(百済観音)など日本を代表する国宝を筆頭に、奈良の地と、奈良国立博物館に関わりの深い社寺の名宝を一堂に会し、130年の歴史をたどる。

京都国立博物館にて同時開催
大阪・関西万博開催記念 特別展「日本、美のるつぼ ―異文化交流の軌跡―」
会期：2025年4月19日(土)～6月15日(日) (休館日、開催時間などはホームページにて確認ください)
古今東西の芸術文化が混じり合いダイナミックに形づくられた日本美術の至宝が一堂に会する特別展。



奈良の塗師屋

Profile

樽井宏幸氏
1974年生まれ。父 春日大塗師職預 樽井禎醇に師事。薬師寺大講堂、春日大社 第六十次式年造替 御神宝御調度製作助手など。奈良の多くの社寺の漆塗に従事。



漆塗りは木材を守り、職人の技術が文化財を未来へ伝える

樽井宏幸

イメージに残っている仕事は？

薬師寺東塔や唐招提寺講堂の須弥壇修復は特に印象深い仕事です。1000年以上続く社寺の歴史を支えるのは、数百年ごとに行われる修理です。時代ごとに適した技術を持つ職人が必要とされます。その役割を担えたことは幸運でした。また、手向山八幡宮の御鳳輦（鳳凰の飾りのある神輿のこと）の新調も心に残る仕事の一つです。

塗師として大切にしていることは？

漆は木材を守る重要な素材です。修復では昔の職人が大切にしてきたものを未来へ繋ぐ責任を感じます。奈良という特別な土地で、古代から受け継がれる本物の技術を目の当たりにしながら仕事ができることは、本当にありがたいことです。

奈良の塗師の家に生まれ、

代々が漆塗りをしていたため自然とこの道に進みました。21歳で修業を始め、20代後半には薬師寺大講堂での仕事を経験しま

塗師の道を進むきっかけは？

奈良の塗師の家に生まれ、代々が漆塗りをしていたため自然とこの道に進みました。21歳で修業を始め、20代後半には薬師寺大講堂での仕事を経験しま

「塗師屋」とはどういった仕事でしょうか？

塗師屋は漆を塗るだけでなく、道具や家具、社寺の修復など幅広い仕事を担う職人です。漆という素材は、300年、400年で捲れていきます。それを修理・修復したり、新調しなおしたりするのです。自分の作品を作るのではなく、依頼に応じた最適な技術を提供することが特徴です。社寺の須弥壇から和菓子屋の椀まで多様なものを手がけられる柔軟性を必要とされます。この仕事の幅広さには魅力がありますし、私自身、塗師屋であることに誇りを感じ



Profile

福西正行氏
1961年生まれ。福西和紙本舗六代目。「表具用手漉和紙(宇陀紙)製作」選定保存技術保持者。国内外の美術館、博物館に修復用の和紙を納める。奈良県内の伝統工芸の授業で紙漉体験教室の開催などを行う。

千年持つ和紙で文化財を支え
伝統技術を未来へ

福西正行

この地域での和紙づくりの歴史を教えてくださいませんか？

国栖の和紙づくりは、大海人皇子（のちの天武天皇）が壬申の乱でこの地に滞在した御礼に、里人に製紙と養蚕を教えたのが始まりとされています。この地域は耕地が乏しいため、紙づくりが重要な収入源でした。江戸時代には宇陀の紙商が流通を担い、「宇陀紙」や「国栖紙」として全国に知られるようになりまし。特に宇陀紙は文化庁から「選定保存技術」として保護されており、私たちもその技術を守り続けています。

宇陀紙の特徴について教えてください。

宇陀紙は文化財の修復に欠かせない和紙です。その寿命は1000年とも言われます。強靭さ、柔軟性、伸縮しない安定性が特徴で、宇陀紙に混ぜる

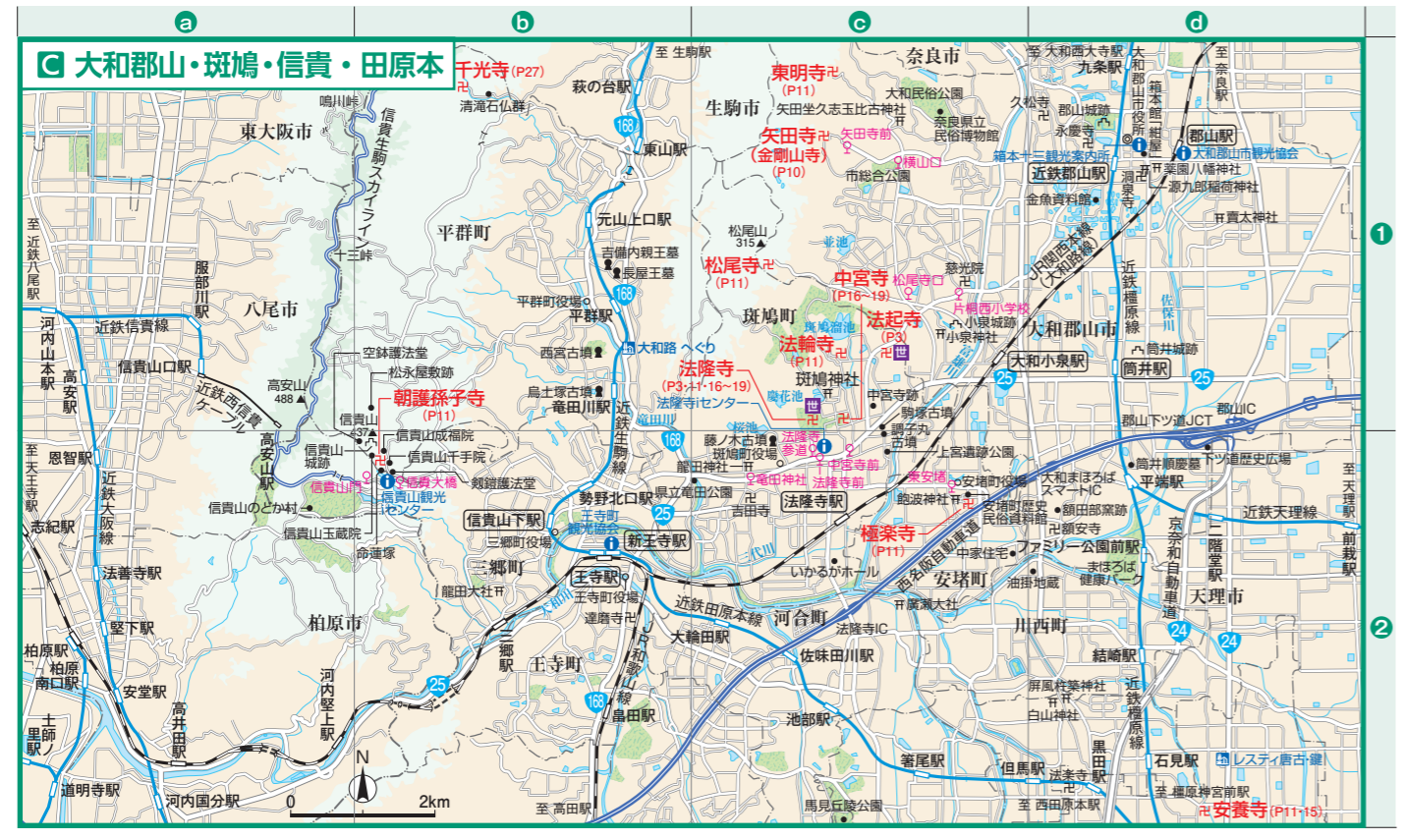
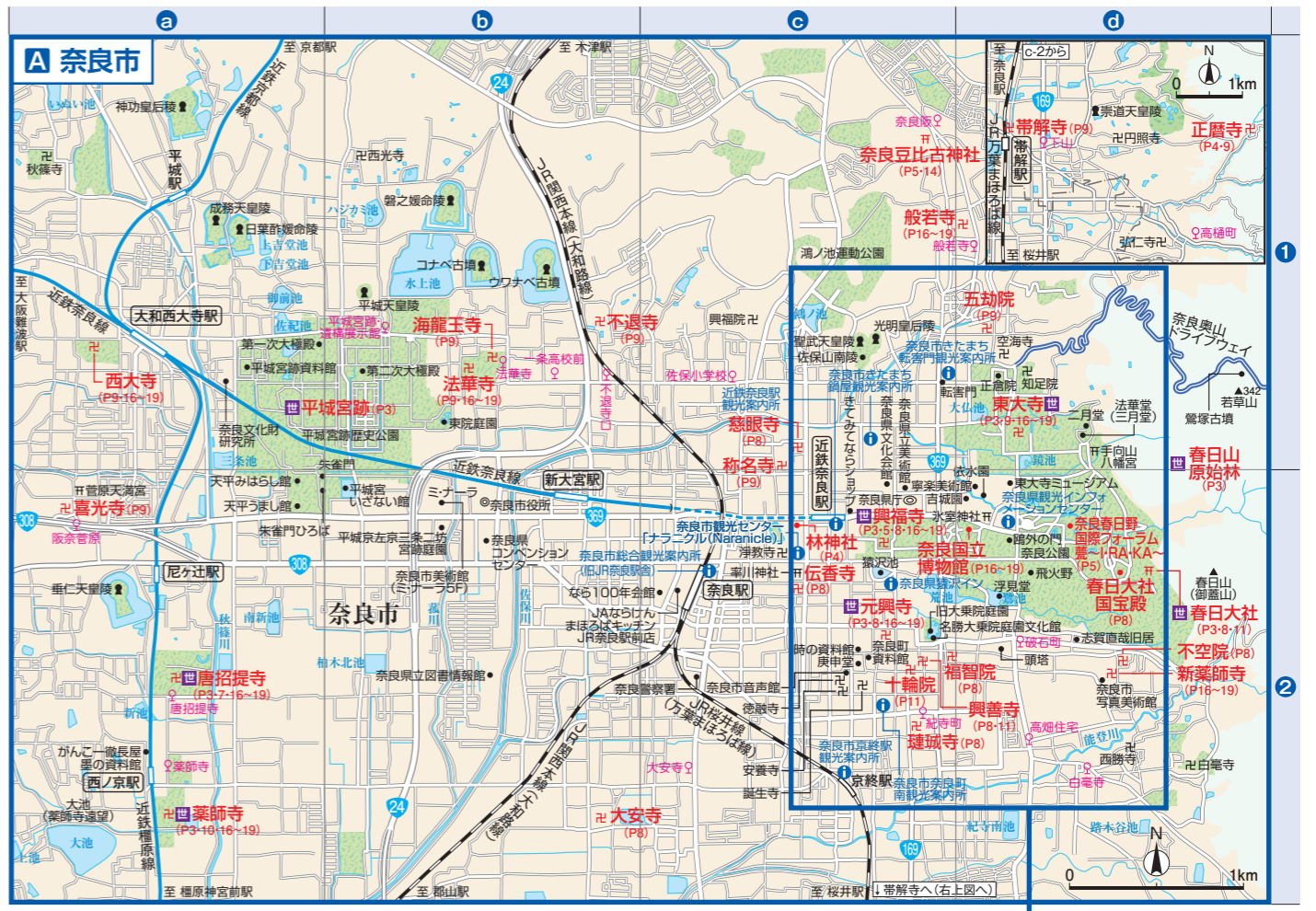
白土のアルカリ性と本紙の酸性が中和されることで長持ちするんです。この特性が国内外の文化財修復に高く評価されています。私たちは寒い時期に漉すことで紙を締め、文化財に合わせて厚みや色を調整するため、試行錯誤を重ねています。

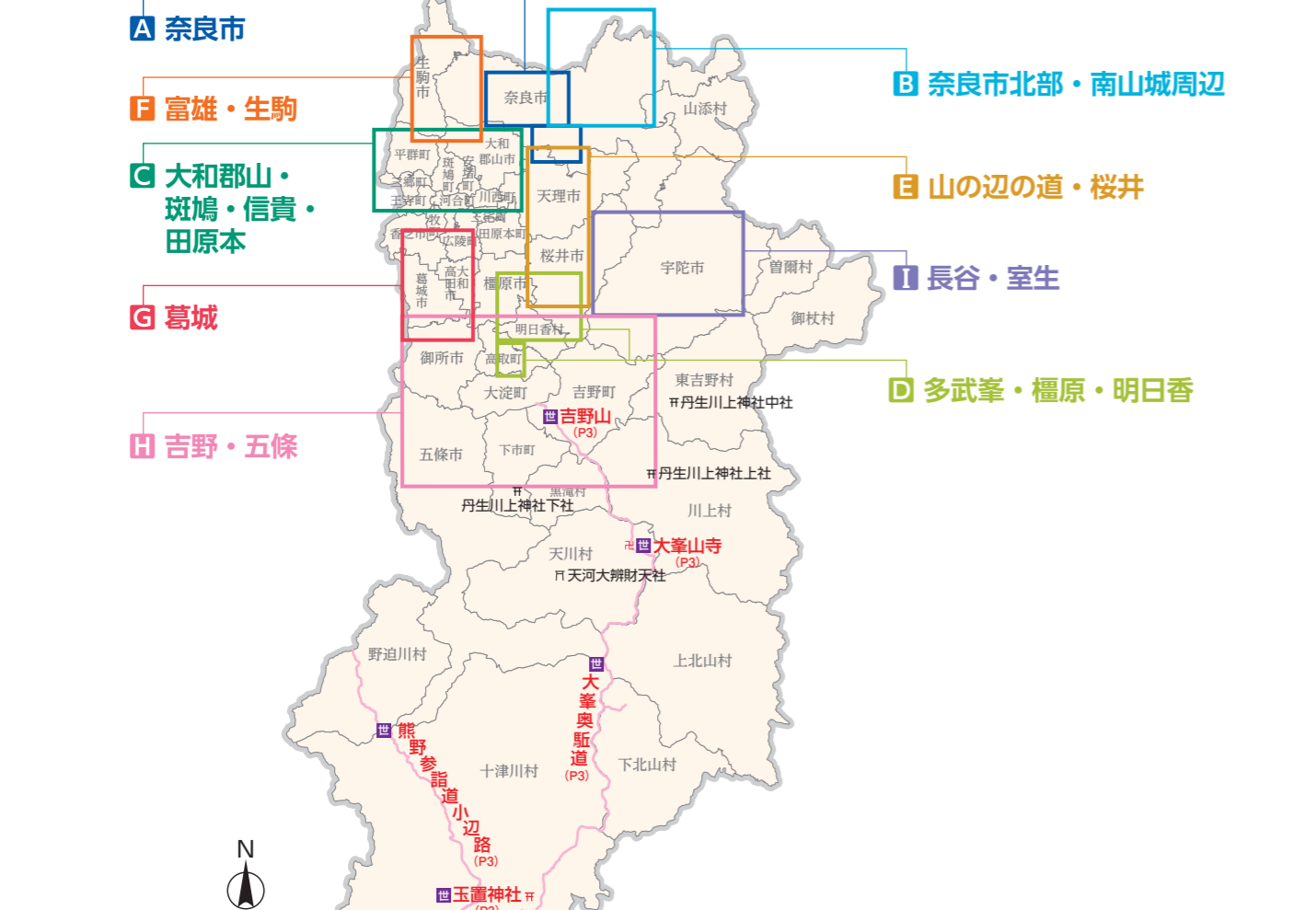
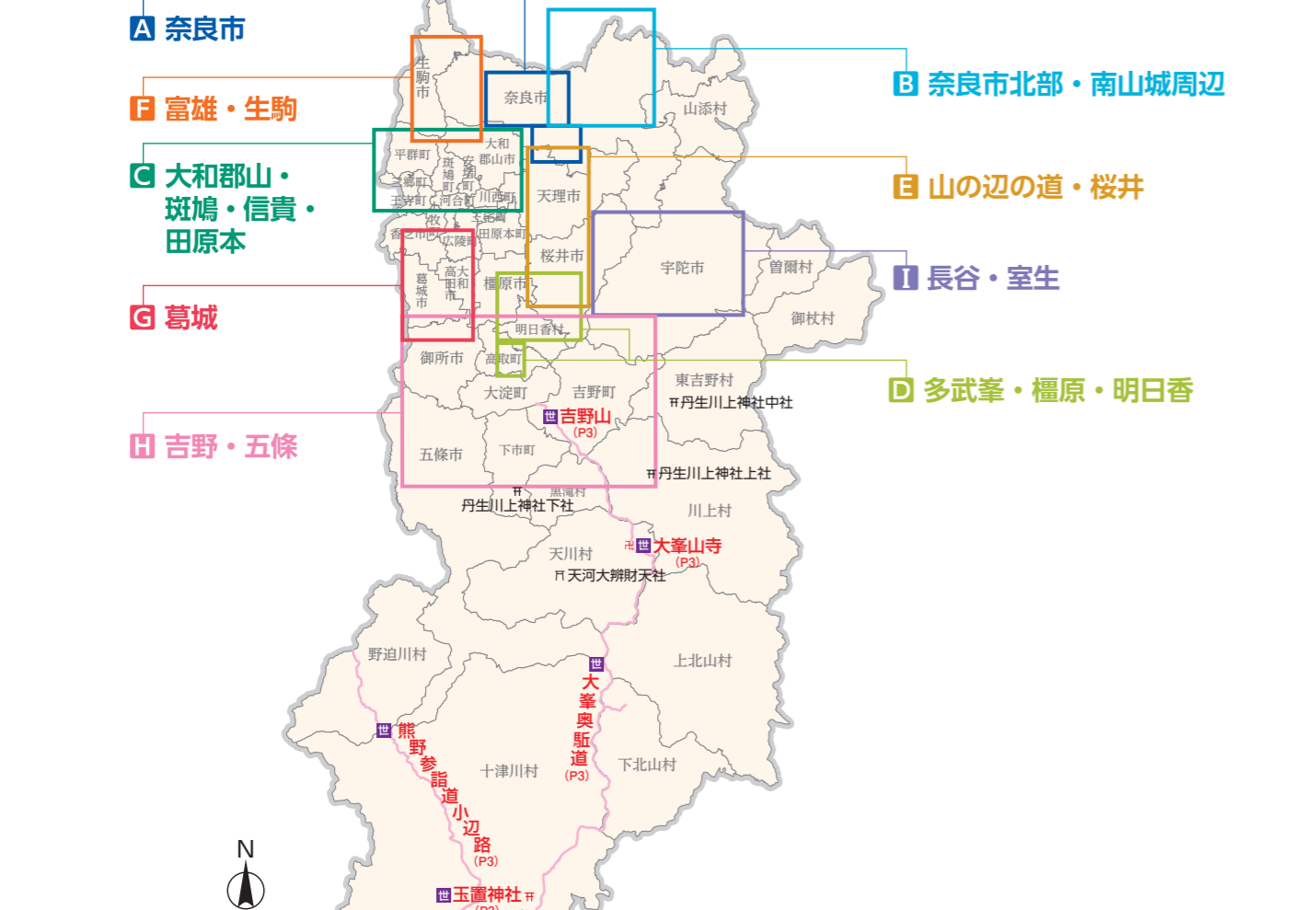
和紙づくりの現場には海外からも関心が寄せられています。伺いました。

はい、海外の修復専門家も訪れるようになりました。例えばポーランドやフランスの文化財修復現場でも宇陀紙が使われています。私が現地に赴くこともありますが、こうして日本の伝統が世界で役立っていることに誇りを感じます。これからも天武天皇から伝えられたこの技術を守り、次世代へとつないでいきたいですね。

国栖の紙漉き









うまし奈良めぐり

知らなかった奈良を遊ぶ！知る！巡る！体験プラン

奈良の歴史ある社寺に伝わる秘宝・秘仏、通常は立ち入れない建物の拝観に加え、神職や僧侶のご案内で巡るプラン、伝統行事やグルメなど、普段では味わえない魅力満載の旅をご用意。ますます奈良が好きになる・・・。

他にも特別企画が盛りだくさん！

千光寺 (せんこうじ)

緑に包まれて自分と向き合う 滝行・食事作法・護摩修行の体験

役行者が大峯山に修行根本道場開山以前に修行したと伝わる千光寺。滝行、精進料理作法を学び、良縁・開運招福祈願の護摩修行を体験していただきます。

開催日 男性限定日：7/5(土)、7/27(日)
女性限定日：7/6(日)、7/26(土)
混合：8/30(土)、8/31(日)、9/6(土)、9/7(日)
10:00～(所要時間：約210分)

参加費 大人：4,000円、中学生以下：3,000円
最少催行人数 1名

MAP P23 G b-1 平群町



滝行

當麻寺奥院 (たいまでらおくのいん)

素敵な腕輪「お念珠」づくり ご祈禱後身につけて功德をいただきます

奥院で咲いた貴重な蓮の実やかわいい色のビーズでオリジナル『お念珠』づくりを体験。奥院本堂で僧侶と共に祈禱していただきお持ち帰り。

開催日 7/26(土)、9/6(土) 13:30～(所要時間：約70分)
参加費 大人：5,000円、小学生：4,000円
最少催行人数 3名

MAP P24 G a-1 葛城市



蓮の実念珠

聖林寺 (しょうりんじ)

一般非公開の大師堂で読経体験 美しくよみがえった 紙製お地藏様特別公開も

国宝十一面観音菩薩立像拝観後、通常一般非公開の大師堂で僧侶と共に読経を体験。江戸中期作の50cmほどの珍しい紙製のお地藏様も特別公開。

開催日 7月以降毎月21日 ※除外日：8月、11月
14:15～(所要時間：約90分)

参加費 3,500円 **最少催行人数** 3名

MAP P23 D b-1 桜井市



紙地藏

室生寺 (むろうじ)

龍神信仰の地に立つ古刹で僧侶と交流 少人数でゆっくりと拝観

僧侶のご案内で境内をゆっくり拝観していただきます。疑問に感じたことを僧侶に質問できるのは少人数ならではの。僧侶との会話を楽しんでみては。

開催日 7/5(土)、7/27(日)、8/23(土)、9/7(日)、10/4(土)、12/13(土)
11:00～(所要時間：約50分)

参加費 4,500円 **最少催行人数** 5名

MAP P25 I d-1 宇陀市



五重塔 (国宝)

お申し込み・お問い合わせ

ご参加には**事前にお申し込み**が必要です。

※最小催行人数に満たない場合、開催日の10日前までに中止する場合があります。
※開催日の4日前に受付を終了します。

詳しくは、**うまし奈良めぐり** <https://yamatoji.nara-kankou.or.jp/nara-umashi/>

うまし奈良めぐり実行委員会 (事務局：奈良県ビジターズビューロー)
TEL:0742-81-8680 9:00～17:00 (土日祝・年末年始除く)

お申し込みはWEBが便利です！

特集関連企画 「国宝のみほとけをめぐる奈良」 ポイントアップ！ キャンペーン

祈りの回廊オリジナルWEBアプリ DL不要

スマホで巡礼

2025年3月1日～9月30日

「スマホで巡礼」は、本誌で紹介している神社仏閣への参拝や、観光スポットへの観光の記録を残すアプリです。1スポットにつき**10pt**が貯まり、通常50ptで1回のプレゼント応募(オリジナルコインケース)ができます！

※対象スポット詳細はアプリ画面でご確認ください。当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。発送は10月下旬を予定しています。

2025年春夏版は、特集「国宝のみほとけを巡る奈良」に連動した特別キャンペーンとして、上記期間「奈良県内の国宝彫刻が安置されているお寺や施設(P17掲載の社寺施設)のみ、特別に1スポットにつき**30pt**が貯まります。

50pt貯めで応募すると
抽選でオリジナル
コインケースを
プレゼント！

※写真はイメージです

さらに！

特集連動キャンペーンで
150ptまで貯めると、
抽選でオリジナル
サーモボトルを
プレゼント！

※写真はイメージです

ここから起動



新規登録の流れ

アプリを起動する

左のQRコードから起動し「新規登録」をタップ！

ログインIDを登録

任意のメールアドレスとパスワードを設定します。自動送信メールが届きます。

メールで本人確認

メールの本人確認URLをタップして完了。もう一度起動画面からログインして利用開始！

【このアプリは位置情報 (GPS) 機能を利用します。必ず位置情報取得機能をONにしてください】

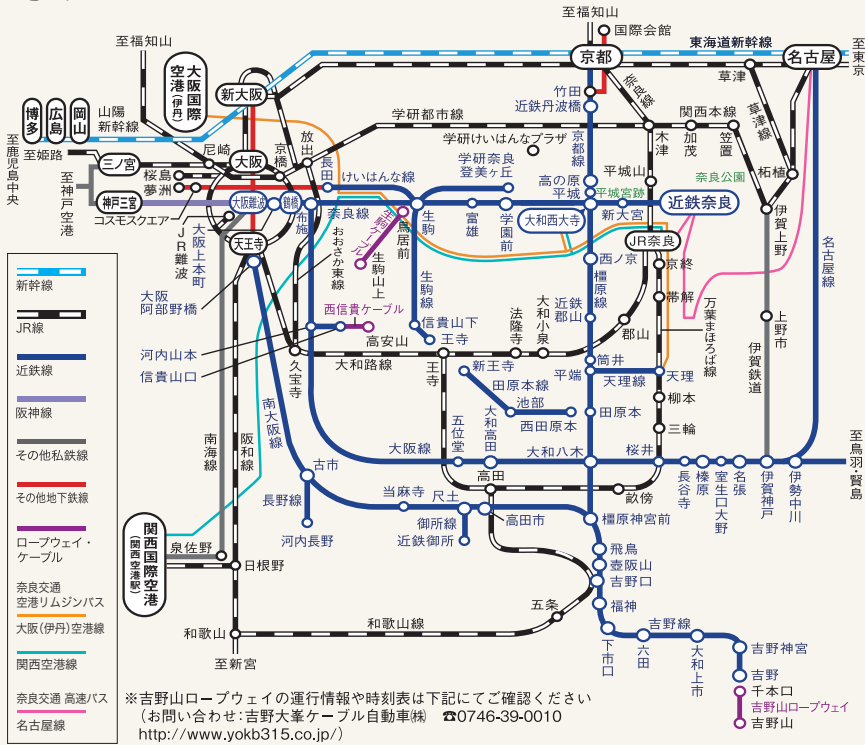
周囲の環境や通信状況、端末の性能によって、動作が不安定または不可能な場合があります。また、登録社寺の立地によってはGPS電波が届かず、チェックインできない(アプリが起動しない)場合があります。電波が届かない社寺については、各社寺の案内画面に明記しておりますので、社寺で配布しているプリントをお受け取りいただき、電波が届く場所でアプリを起動し、「チェックインする」をタップして、プリントのマーカ一部にかざしていただくことでチェックインできます。本アプリケーションのご利用に際しては、周囲の状況に注意し、お客様が利用される地域に適用する法律・慣習を遵守した常儀的かつ適正なご利用をお願い致します。本アプリケーションの使用に際しましてお客様自身または第三者に損害が生じた場合、奈良県はその賠償の責任を一切負いかねますことをご了承ください。 ※QRコードは株式会社デンソーウェアの登録商標です。推奨環境：iPhone iOS + Safari (ブラウザ)・Android OS + Chrome (ブラウザ)それぞれ最新バージョンでのご利用をお願いします。

エリア	社寺名	掲載頁/地図	主な特別開催内容	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
A 奈良市	唐招提寺	P7 A a-2	①覚上人坐像(重文)《中興堂》				5/19 ※中興堂梵網会(うちわまき)			
			②阿弥陀如来立像(重文)《西方院》			5/20~5/26				
			③鑑真和上坐像(国宝)《御影堂》			6/5~6/7 ※開山忌舎利会				
			④地藏菩薩立像(重文)《地藏堂》			8/23~8/24 ※地藏盆				
	春日大社 国宝殿	P8 A d-2	特別展 究極の国宝 大鑑展 ~日本の工芸技術の粋を集めた甲冑の美の世界~(国宝など)					7/5~9/7		
	興福寺	P8 A c-2	三重塔特別公開(国宝など)					7/7 ※弁才天供(10時~)		
	福智院	P8 A c-2	宝冠十一面観音菩薩立像		3/17~3/23					
	不空院	P8 A d-2	本尊・不空羂索観音菩薩坐像と秘仏・宇賀弁財天(重文など)				4/26~5/11			
	元興寺	P8 A c-2	輪奘智光曼荼羅(県指定文化財)		3/17~3/23				9/20~9/26	
	璣城寺	P8 A c-2	阿弥陀如来立像など(重文など)				5/1~5/31 ※毎月休日は休み			
	大安寺	P8 A b-2	秘仏・馬頭観音菩薩立像(重文)		3/1~3/31					
	慈眼寺	P8 A c-1	聖観世音菩薩	3/2 ※二の午大法要						
	伝香寺	P8 A c-2	地藏菩薩立像(重文)など	3/12 ※本堂特別公開		7/23 ※地藏菩薩更衣法要				
	興善寺	P8 A c-2	観経曼陀羅拜観	3/17~3/23 ※要予約					9/20~9/26 ※要予約	
	五劫院	P9 A d-1	五劫思惟阿弥陀仏坐像(重文)					8/1~8/11		
	不退寺	P9 A b-1	在原業平朝臣画像、寺宝展				3/1~5/31 ※5/28のみ多宝塔特別公開(業平忌)			
	帯解寺	P9 A d-1	秘仏・秘宝特別公開(重文など)	3/1~3/8						
	海龍王寺	P9 A b-1	十一面観音菩薩立像、寺宝展(重文など)				3/23~4/7、5/1~5/9			
正暦寺	P9 A d-1	春季特別公開(重文など)				4/18~5/8				
B 奈良市北部・南山城周辺	法華寺	P9 A b-1	①十一面観音菩薩立像(国宝) ②国史跡 名勝庭園		3/20~4/7		6/5~6/10 4/1~6/10			
	喜光寺	P9 A a-2	弁天堂神影 宇賀神(秘仏)特別開扉	6/12~8/11 ※ログスロッド開催期間中						
	西大寺	P9 A a-1	聚宝館特別公開(国宝など)				4/20~5/10			
	東大寺	P9 A d-1	重源上人坐像(国宝)など《後乗堂》		7/5 ※後乗忌 ※法要終了後に特別開扉					
	称名寺	P9 A c-1	獨慮庵、本尊・阿弥陀如来坐像(重文)、釈迦如来坐像(重文)				5/15 ※珠光忌			
	業師寺	P10 A a-2	①三大壁画特別公開 ②国宝東塔・西塔特別開扉(国宝など)	4/26~5/6 4/26~5/6						
	東鳴川観音講(成現寺)	P10 A a-2	不空羂索観音菩薩坐像(重文)	毎月第一日曜日						
	岩船寺	P10 A a-2	①秘仏・如意輪観音菩薩、秘仏・弁財天、秘仏・羅刹天 ②三重塔初層特別開扉(重文) ※雨天・荒天時は塔開扉中止の場合あり				4/1~5/31 4/26~5/6			
	浄瑠璃寺	P10 A a-2	①秘仏・吉祥天女立像(重文) ②三重塔初層開扉(国宝)・業師如来坐像(重文) ※ただし好天の日に限る	3/20 毎月8日				3/21~5/20		9/23
	現光寺	P10 A a-1	本尊・十一面観音坐像(重文)				5/3~5/5			
海住山寺	P10 A a-1	春の寺宝特別公開(重文など)				4/26~5/6				
C 大和郡山斑鳩信貴田原本	矢田寺	P10 A c-1	地藏菩薩立像、閻魔堂(重文など)				6/1~6/30			
	松尾寺	P11 A c-1	①日本唯一の舎人親王(日本書紀編纂)像 ②修験道まつり(役行者像等公開)				3/20~12/21		9/1~9/15	
	法隆寺	P11 A c-1	夢殿本尊救世観音像特別開扉(国宝)				4/11~5/18			
	東明寺	P11 A c-1	薬師瑠璃光如来坐像など(重文など)				6/1~6/15			
	朝護孫子寺	P11 A b-2	秘仏・毘沙門天王像				7/1~7/8			
	安養寺	P11 A d-2	阿弥陀如来立像(重文)		3/15~3/23				9/20~9/28	
	極楽寺	P11 A c-2	広島大仏・特別開扉				8/1~8/15			
	法輪寺	P11 A c-1	妙見菩薩立像など		4/15 ※妙見会式					
D 多武峯極原明日香	正蓮寺 大日堂	P7 A a-1	①大日如来坐像特別公開(重文) ②猫入り涅槃図特別公開						9/14~9/23 9/14~9/23	
	おふさ観音	P12 A a-1	①本尊・十一面観音菩薩立像 ②秘宝・生き人形、寺宝公開			4/17・4/18			5/15~9/30	
	極原神宮	P12 A a-1	第4回 織田家柳本陣屋御殿「文華殿」保存修理特別公開(重文)	4/19・20			4/26~5/6			
	壺阪寺(南法華寺)	P12 A a-2	①大鑑曼荼羅 ②二大塔同時開扉 ③壺阪観音お身拭い特別参拝			2/23~4/20	4/26~7/6 4/26~7/6			
	橋寺	P12 A a-2	聖倉殿(収蔵庫)特別公開(重文など)				4/19~5/6			
	談山神社	P12 A b-2	談峯如意輪観音菩薩坐像				6/1~7/31			
	岡寺	P12 A b-2	本堂内々陣お屏特別開扉(重文)				4/1~6/29			
E 山の辺の道・桜井	安倍文殊院	P12 A a-2	①金閣浮御堂堂宝館 春夏の寺宝展(国宝など) ②秘仏・十二天	春:3/1~5/31			夏:6/1~8/31			
	寶山寺	P12 A a-2	獅子閣(重文)		5/3~5/5		4/26~5/6			9/23
F 富雄・生駒	雲山寺	P12 A b-2	薬師三尊像(重文)				5/18 ※善哉会式と祭り			
	當麻寺	P12 A a-1	裏板曼荼羅、板光背など《曼荼羅堂》				4/13~4/15			
G 葛城	當麻寺 奥院	P12 A a-1	奥院御影堂(本堂・重文) 特別拝観				4/12~5/6			
	當麻寺 中之坊	P13 A a-1	①春季特別展「中將姫」 ②夏季企画展「江戸時代の版木」 ③導き観音(平安時代・重要美術品)				4/13~5/6		6/1~8/31	
	石光寺	P13 A a-1	日本最古の石仏開帳				4/14~5/14			
H 吉野・五條	櫻本坊	P13 A c-2	釈迦如来坐像(重文)				3/29~4/8			
	金峯山寺	P13 A c-2	日本最大 秘仏本尊金剛蔵王大権現 特別公開(重文)				3/28~5/6			
I 長谷・室生	榮山寺	P13 A a-2	①本尊・薬師如来坐像(重文) ②八角円堂内陣装飾面特別拝観(国宝など)				4/25~5/25 4/25~5/25			
	船宿寺	P13 A a-1	薬師如来坐像				4/26 ※開山1300年花法会			
I 長谷・室生	長谷寺	P13 A a-1	①本尊大観音尊像 春季特別拝観(重文) ②春季特別寺宝展(宗宝蔵)(重文など)					3/15~7/6 3/15~7/6		
	室生寺	P13 A d-1	金堂特別拝観(国宝など) ※期間中拝観された方には特別懐中御守護を授与				3/29~5/6			

お出かけの際は事前に最新情報をご確認いただき、拝観料その他詳細は各社寺にお問い合わせください。(掲載内容は2025年2月現在のものです)

秘宝・秘仏特別開帳カレンダー(2025年3月~2025年9月)

奈良アクセスガイド

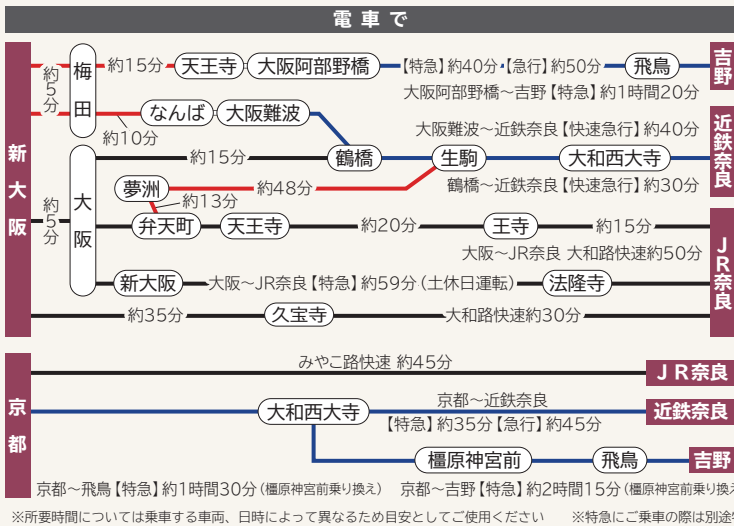


❖大和路秀麗❖ 八十八面観音霊場の法話会

大和路秀麗八十八面観音霊場の法話会は法華寺・西大寺・海龍王寺・大安寺・法輪寺・聖林寺・長谷寺・室生寺の八か寺の十一面観音菩薩を巡拝する霊場会です。令和7年春の法話会を下記のとおり開催します。法話会にご参加いただき、十一面観音菩薩の慈悲の心を感じてください。(事前申込制、有料)



- 日時:** 令和7年5月26日(月)
午後2時より(受付は午後1時30分より)
- 講師:** 奈良国立博物館名誉館員、東アジア仏教文化研究所代表 西山厚先生
- 場所:** 法要は法輪寺 法話会は三井自治会館(法輪寺より徒歩5分)
- 参加費:** 2,500円(入山料含む)
- 定員:** 30名(先着順)
- 申込方法:** 往復はがきに①住所②氏名(ふりがな)③電話番号④申込人数を明記の上、5月12日までに次の宛先までお申し込みください。
宛先: 〒636-0101 奈良県生駒郡斑鳩町三井1570
法輪寺【大和路秀麗八十八面観音霊場の法話会】係宛
- ※復路(返信はがき)にご自身の住所・宛名を記入漏れのないよう書きください。お当選のお知らせは返信はがきにいたします。申込人数は、はがき1枚につき2人までとなります。お申し込みは往復はがきのみとさせていただきます。**



●JR西日本

大阪から奈良へは特急「まほろば」で。

MAHOROBA LIMITED EXPRESS RENEWAL

2025 SPRING DEBUT 2025 AUTUMN DEBUT

特急「まほろば」の詳しい情報はこちらから

●近鉄のおトクな情報

さあ、万葉の時へ。

近鉄

大阪・奈良・京都を結ぶ、
観光特急「あをによし」

祈りの回廊 <http://inori.nara-kankou.or.jp/> 奈良県観光[公式サイト]あをによし [なら旅ネット http://yamatoji.nara-kankou.or.jp/](http://yamatoji.nara-kankou.or.jp/)

奈良県観光局 観光力創造課 〒630-8501 奈良市登大路町30番地 TEL:0742-27-8482 FAX:0742-27-3510

※当誌面掲載の写真・図版・記事等の無断複写・転載を禁じます。 ※本記載内容は2025年2月現在のものであり、内容が変更となる場合があります。